大正元年十月一日第三種郵便物認可 （毎月一回一日發行） 大正二年四月一日發行 第一卷第七號

近代思想

四月號

■社會か監獄か（詩）……榮（一）
■創造的進化（評論）……大杉榮（二）
■卑怯者の文學（評論）……荒畑寒村（六）
■旅情（詩）……土岐哀果（一〇）
■畫廊にて（詩）……佐藤緑葉（一三）
■金を懷に入れて（詩）……上山草人（一四）
■腹がへつたあ！（對話）……榮（一五）
■トルストイの思想（詩）……寒村（一五）
■ハサミ將棊（感想）……上司小劍（一六）
■ファウスト論（評論）……荒畑寒村（一八）
■超人の戀（評論）……大杉榮（二三）
■三月の小說（批評）……寒村（二六）
■新刊紹介……記者（二八）
■賣文社より（雜錄）……澁六（三〇）
■編輯室より（雜錄）……榮（三一）
■消息……記者（三三）

近代思想社

東京府下大久保百人町三五二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

2/3-442254
Asia Lib
AP
95
J2
K4
no.

文學博士　三宅雪嶺先生著

明治思想小史

▲丙午出版社創立七周年記念出版『大正文庫第一編』

三六版箱入
實價五十錢
郵税　六錢

日本の大思想家三宅雪嶺先生今や思想の最高壇に立つて明治思想の變遷を語るまづ明治以前の思想界に筆を起して維新の思想に入り進んで最近四十五年間の政治經濟學術道德宗教教育社會等の各方面に亘り深刻の觀察を逞うして剴切の結論に到る即今大正維新の風雲に際會せる日本國民は明治年間國運の大發展が果して如何なる思想の產物なりしかを知悉して依つて以て第二の維新を大成せざるべからず果して然らば此書これ眞に大正國民必讀の書

增補 偉人の跡

三宅雪嶺先生著（好評十版）

定價一圓
郵税八錢

小泡十種

三宅雪嶺先生著（好評五版）

定價四十五錢
郵税八錢

東京區小石川原町六
丙午出版社
振替東京一六八六五一番

東京區小石川原町六
鷄聲堂
振替東京一三五三三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學士 野上白川氏譯　津田青楓氏意匠

再版出來 **邦譯近代文學**（初版即日賣切）

空前の美本函入裝釘印刷新意紙數五百四十頁

定價 一圓二十錢　郵税一冊八錢

十三文豪の **小說戲曲集**

若き未亡人。其秘密（ワイルド）新婚旅行中の綴物語。死んだ姉の烈しき情慾。醜惡な求婚者の幻想（ウエデキント）西伯利亞流刑人の死の遲鈍な心（アンドレーエフ）美しい白痴の少女。病理學上の實驗。結婚に依て起る心的變化。男に棄られて發狂する徑路（モオパッサン）一幕物。女優二十歳。前生不身持の母。劇場衣裳方の女。女優の異母妹。共通の父の暗き（ストリンドベルヒ）大理石の上に眠る七人の姫。若き王子の歸國。老王老姫。姫の死（メイテルリング）喜劇。彼はなぜ彼女の亭主に嘘をついたか。中年の商人。派手な妻。若き詩人（シヨオ）一人の女に對する父子の戀女。を海に投げる（ゴリキイ）外五篇本書一冊を讀めば最近各大家の特色を窺ひ得べし。

東京市神田區南神保町十六

尙文堂書店

電本四二五四振一九三四四

（最新刊）

クロムエル

カアライル原著。畔上賢造先生譯。定價六拾錢　郵税六錢

上卷發賣

信仰の大戰士クロムエルの生立より精叙して、第一、第二内亂を經、遂にチャルス・スチュアートを斷頭臺に上すの活劇に已む。クロムエルの書翰、演說を經とし著者の說明論評を緯として、痛切銳利の文を行る譯文は平易明快を其特色とし、抄譯なりと雖も原文の骨子と大精神を逸すなからむことを期せり。且つ卷頭に四十頁の解說を添へて趣を助く。偉大なる信仰に起因する勇猛的行爲を學ばんとする人々は本書に來れ！

東京銀座

警醒社

振替東京五五三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

徳富健次郎序　木下尚江跋　石川三四郎著

哲人カアペンター

四六判三百五十頁、寫眞版カ翁像、カ翁自筆寄翰、定價金八十錢、送費金六錢

疲憊せる現代人心に一道再生の光明を與ふる世界的偉人の紹介。

〔本書の批評〕　現代の文明を疾病なりと批判し原始的生活中に却つて健全なる意義を發見し、其主張と共に實行に努めつゝある思想家の中、ヤスナヤ・ポリヤナの老翁の如きは其の最も巨大なるものにして、森林生活の實行者トローの如き其の最も異彩に富める一人なるべし、哲人カアペンターも正しく預言者的性質を帶びたる此種の人格にして、シエフイルドの片田舍に自ら丸木小屋を立て、農夫的勞働をなし、草鞋を製作しつゝ、靈妙なる著作を公けにしつゝあるなり。石川三四郎君、深く此人の思想に傾倒し、苦境の中に或は譯し或は論じ以て本書を作す此人の社會觀、藝術觀、兩性觀、宇宙及人生觀解釋等の概略を知るに足るべし。本書が思想界に寄與する處多く、著者の勞が全然徒爾に非ざるを信じ、心ある讀書家に推薦す。（都新聞――介山氏）

石川三四郎氏著

西洋社會運動史

（定價金貳圓三十錢）

安寧秩序紊亂の故を以て

發賣禁止!!!

東京市京橋區南傳馬町三丁目

東雲堂書店

電話京橋一六三九　振替東京五六一四

THE PILGRIMAGE.

BY YONE NOGUCHI.

新英詩集

野口米次郎著

「東海より」以來過去十年前の英詩を聚む。二年前、此集英米詩壇に顯はるゝや好評嘖々、時の批評家著者を比するにバエレーン或は畫家ウヰスラーを以てせり。ヲンニソム氏が野口氏を評論せる一大論文(セ、フオートナイトリー、レヴユウ)は詩集の巻末に掲げらる。

新形發賣

定價金一圓

送費金六錢

◎今日より顧れば、詩のやうな時代は一度は、此のせゝこましい日本にもあつた。日本は當時に於て十分の意義に於ての世界の日本では無かつたかも知れぬ。然れど世界は日本に對して、今日よりも平和であつた。「ヨネノグチ」は此の時代に、詩を胸に懷いて米國に渡つたのである。若し彼にして米國に渡ること、十年遲かつたならば彼が胸中の詩は果して世に出づる機會を得たであらう乎。彼は、此の點に於て、全く特殊の地位を占めて居る。◎西洋人は、「野口」の詩に於ける及び文に於ける想像力の豐富を見て、「野口」の日本人である點よりして、日本人の富贍なる想像と稱して居るが、日本人は決して西洋人の輕易に想像するが如き、想像の富贍なる人民で無い。日本人の想像力は思ひ切つて貧弱である。日本に大なる文學無く、大なる哲學無く、大なる事業が無かつたのは、其の根本の理由は、實に此の想像力の貧弱に在るのだが、此の點に於ては野口は眞に一の天才である。彼れの文は詩趣の漂うて居る。或は彼れの詩は想像の翼に依つて蝶の如く舞うて居る。彼は其の詩趣饒き文詩を以て、毎月或は毎週、英米の文壇を賑はして居るが、紙と木とのマッチの函のやうな日本の家に棲み、風呂敷を細工したるが如き日本の衣を着け、米を食ひ、茶を啜り、或は團扇を使ひ、或は火鉢を擁して日本語を話し、日本語を讀みながら、ペンを横に走らして出來上がつた原稿を、海は太平洋を越えて亞米利加に陸は西比利亞を經て英國に送る處、彼も亦日本には離れそこれた人間の一人である。(東京魁新聞—若宮卯之助)

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四番　東雲堂

新刊報告

小宮豐隆氏著

小說 烙印

▼評論家として鏘々の名ある豐隆氏が其しかつめらしい社袴を脱いだ華奢姿の創作家たる態度や如何。須らく本書に看よ。

●晝夜 ●芝居茶屋 ●影…… ●烙印

●實價八拾錢（送料八錢）

五葉表裝 四六判型 三五〇頁 帙入華麗

青木健作氏著（現代文藝第二十一篇）

小說 お絹

五年間の痛ましい遊女の勤めを了へて太古ながらの山中の村に歸る『お絹』！『虻』共に日本文學に缺如せる牧歌的作物である。

相馬御風氏著（現代文藝第二十二篇）

小說 峠

目次｛峠 仙人の話 努力｝

現代文藝實價各冊廿五錢 ●各送料四錢●

德田秋聲氏著

小說 媾曳

實價六十五錢 送八錢

長田幹彦氏著

小說 船客

實價金八十錢 送八錢

東京市日本橋 振替一一六一七

春陽堂

第一巻第七號

社會か監獄か

お互に
君と僕と怖れてゐる。

お互に
君は僕に對して、僕は君に對して、
自分を保護するために、
此處に社會と云ふ組織を作つた。

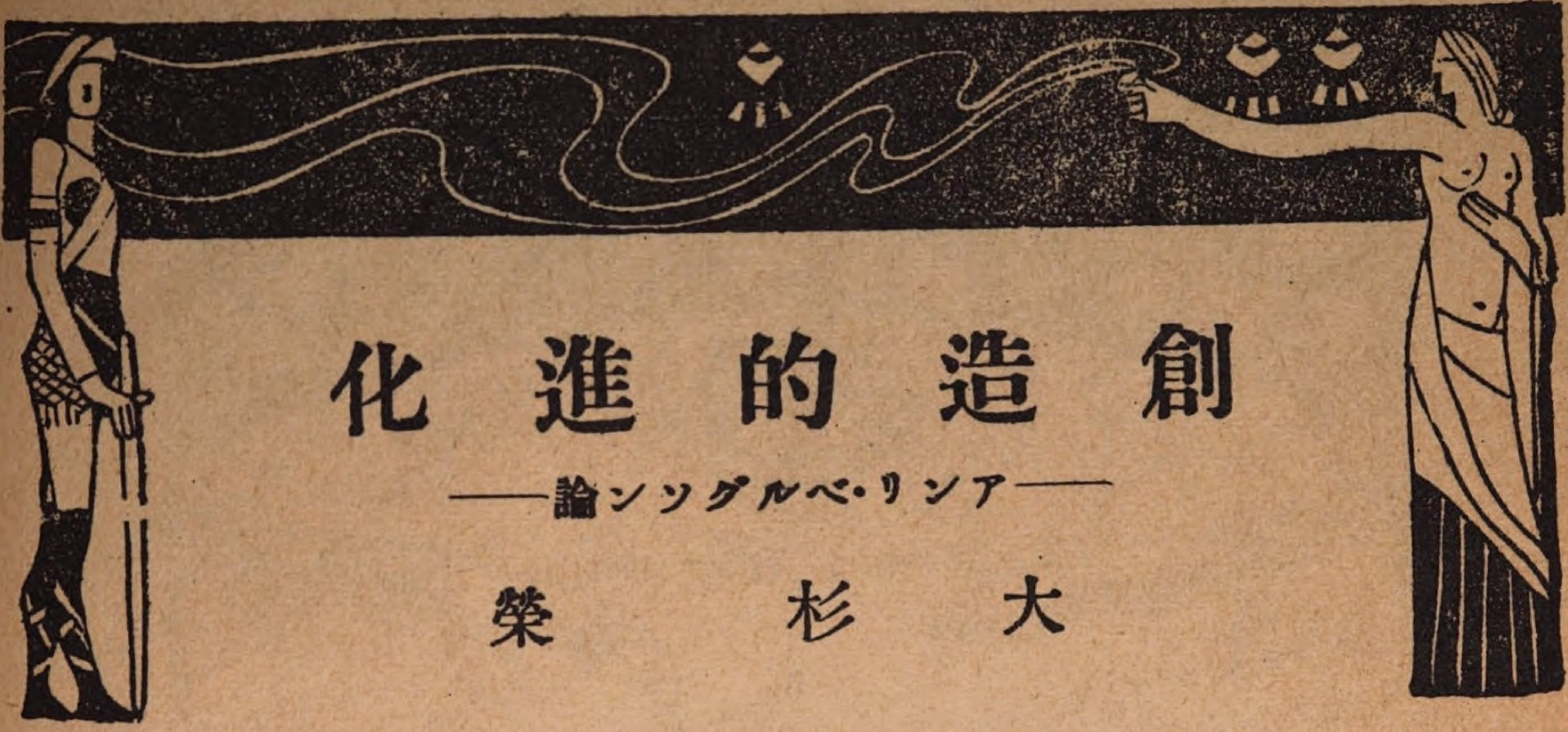
君は僕の敵だ。
僕は君の敵だ。

君は僕がやるに違いないと思ひ、
僕は君がやるに違いないと思ふ、
有らゆる悪意と暴行とに對して、
民法や刑法の幾千個條を定めた。

是れが
君と僕との社會だ。
君と僕との監獄だ。

―榮―

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



創造的進化

――ベルグソン論――

大杉榮

一

本誌第二號所載『近代科學の傾向』の中に、僕は、自然現象に關する智識と社會現象に對する概念との、常に相反映する事實を説いた。そして其の時には、只自然科學と社會科學との相交渉する有樣を特に力説して、此の自然科學其者が又、常に社會事實の上から、更に精密に云へば經濟事實の上から、多大の暗示を受けてゐる事に就いては、遂に一言の及ぶ處がなかつた。そこで此の文章に於ては、近時流行のベルグソンが創造的進化論を藉りて、少しく此の方面の事實を語りたい。

ベルグソンの創造的進化論は、其の出發點を、進化論的生物學の上に置いてゐる。從つてベルグソンの此の哲學を論ずるには豫め進化論の諸學説を一應瞥見して置く必要がある。

ベルグソンは云ふ。古代の生物哲學や生物科學は、近代のそれ等が法則を重んずる如く、種屬の決定を尚んだものであると。そして猶ベルグソンは、此の種屬の決定を遺傳説の應用であるかのやうに説いてゐるしかし之れは原始時代の生物經濟から自然に生じた思想ではあるまいか。

家畜を飼ふにも、いろ／＼な謀計をめぐらして狩獵をするにも、又諸動物の狡猾を防ぎながら耕作するにも、原始人は必ず其等の動物の習性を觀察してゐなければならなかつた。そして其の間に、無數の變種のある中にも、原始人の動物經濟的見地からは極く少數の明瞭に區別せられる種屬のある事を發見するやうになつた。

それともう一つ、植物經濟の上から出た思想がある。譬へば麥を植ゑるものに取つては、動物の習性などは別に問題にならない。土を耕して、種子を播いて、肥料を施して、そして必要があれば水を灌いで置くだけの事である。從つて彼等に取ては、生物學的作用は播種の時に始まつて收穫の時に終る。換言すれば生は芽から芽までの經過の中に含まれる。そして此の經過が季節によつて支配せられ、其の季節が又、太陽によつて節調せられてゐる事に、やがて思ひ到る。斯くして芽から芽までの經過が天文學と結付かつて、天體の運動の嚴密に規則正しい事から、植物の各生代の絕對的類似を假定するやうになつた。そして其處に植物經濟から生じた、しかし動物經濟から

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の夫れとも屢々混合する、種屬の概念が出て來る。

斯く生物經濟は二樣の種屬概念を生ぜしめたのであるが、やがて社會進化に伴つて種屬不變の思想が破壞せられると共に、恰も此の二概念に相當する、二種の甚だ相異なつた進化論が唱へ出された。

二

即ち第一概念は、科學の目的を動物習性の研究に向けて、種屬の變化を其の個體が生存してゐる周圍の諸條件の結果として觀る、一進化論に導いた。此の進化論に據ると、個體が變化の主であつて、芽即ち生殖細胞は祖先が得た新しき性質を子孫に移すたゞの機關に過ぎなくなる。

そして當時の此の思想の最も自然の發達は、一切を個體其者の渴望と內的努力とに結付けて、變異性の本質を心理學的に說明する事であつた。ラマルク及び殊にコープの見解は即ち之れであつた。麒麟がだんだん上の方の木葉を得やうとして、其の頸を延ばして行くと云ふ話は、ラマルク說の有名な例になつてゐる。

然るにやがて適應論其者に更に分化を生じて、アイメルは、此の心理學的說明に反對して、單に物理化學的方法のみを以て、進化論を建設しやうとした。そしてアイメルは殊に光線と熱との研究に就つて、此の方面からの變種を說明しやうとした。

之れに反して植物經濟の產んだ種屬の第二概念は、個體の習性と云ふ事よりも芽から芽への經過を科學の目的とした。そして自然陶汰と雌雄陶汰とによつて個體が適應の上に大なる役目を勤めると云ふダーキン說を橋渡として、遂に芽が變化の主であつて、個體は此の芽の容器に過ぎないと云ふ新ダーキン說に到達した。

蓋し芽がいつも同じ形の下に再び現はれて來ないとすれば、此の芽の活物としての性質を與へなければならぬ事になる。ワイスマンは個體を分けて、其の個體生活の變化に影響せられる全體と、及び其の種屬の運命を携へて行く芽との二ツとした。そして此の芽の種屬的生命と云ふ事が研究の主題となつた。然るに此處にも亦、生に對する二概念から、二種の異なつた進化說を生ずる事となつた。

生は豫め決定せられた案を實行して行くものと見る事が出來る。そして此の概念から目的論的進化說が產れた。キルマイエル等の獨乙生物哲學者は即ち是である。けれども亦生を創造として見る事も出來る。そして此の創造と云ふ事が、近代科學の方法によつて、或る一刹那に決定せられるものとなつた。即ち生とは、自然が生物の使用するに任した材料を利用して、不意に或者を創造する努力である。又芽即ち生殖細胞とは、種屬變化の潛力貯藏的とも云ふべきものである。

猶デ・フリースは更に此の芽の種屬的生命に著しき特性を附して、種屬は固定と變化の二時期を通過するもので、變化の時期が來ると、種々なる方面に、意外の變種を生ずる、と云つてゐる。

三

ベルグソンは此等の諸進化說を詳說し且つ夫れ々々批評してゐるが、要するに先きに云つた第二概念から出た此の生物學說を出發點としたものである。

ベルグソンは云ふ。『生とは、或る發達したる有機體の仲介によつて、芽から芽に行く流れの如きものである』。『されば一般生命を抽象のものとして、或は有らゆる生

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物を其の下に書き並べるたゞの標題として見る事は出來ない。或る一時機に於て、空間の或る點に於て、明に眼に見える流れが生じて、此の生の流れが、其の順々に組織した體を通つて、一生代から他の生代に移つて、そして些かも其の力を失ふ事なく寧ろ其の進むに從つて益々其の力を増しつゝ有らゆる種屬の中に又有らゆる個體の中に分かれ散つたのである』。

又ベルグソンの所謂『活躍』とは、一榴彈が爆發して、それが又紛々の榴彈になるのと同じ意味のものである。『生とは傾向である。そして傾向の本質は、たゞ其の生長と云ふ事實のみによつて、其の跳躍の分れる種々の方面を創造しつゝ、束の形になつて發達する事である』。『各々の種は、其の種の成立せらるゝ行爲其者によつて、其の獨立を確め、其のむら氣を追ひ、多少の脱線をして、時としては更に坂を登り、そして其の元の方向に背を向ける』。

猶ベルグソンは、此の方向に就いて、目的論を絶對に排斥してゐる。『實現さるゝ案以上のもつと善いものが其處にあるのである。案とは或る仕事に指定した極限である。將來の仕組を施して、將來を閉ぢて了ふものである。之れに反して生の進化の前には、將來の門が大きく開かれてゐる。生の進化は、發意的運動によつて、目的なくして生ずる創造である』。『若し生が或る案を實現するものとすれば、生は其の進むに從つて、益々高き調和を現はさればならぬ事となる。之れに反して、若し生の統一が全く時間の道の上に生を押して行く跳躍にあるとすれば、調和は前方になくつて後方にある事となる。統一は後ろからの無理押しから來る。即ち始めに衝動として與へられたもので、誘惑として先きの方に置かれたものでなくなる。……斯くして有らゆる種の間の不調和が益々甚しくなる。……進歩は益々複雜になりそして益々高尚になる生物の二三の大進化線にのみ行はれて、猶此等の線の間に無數の小徑があつて、其處に錯行や定著や退歩が集まる』。

斯く此の生の進化は、中々思ふやうに好都合に行くものでない。『仕事と結果との間には大なる不權衡がある。……屢々其の努力が、或は反對の力によつて殺がれ、或は其の爲しつゝある事によつて其の爲さればならぬ事から外れたりして、行きつまつて了ふ。……一般生命は易動性其者である。然るに生の特殊の發現は、厭や〳〵此の易動性を採用し、且つ常に其の運動を遲らせる。一般生命は常に前方へ進んで行くのに、其の特殊の發現は或る場所に足踏みしやうとする。……即ち生は出來るだけ動かうとしてゐるのだが、各々の種は出來るだけ少量の努力を與へやうとしてゐるとも云ひ得やう。……生が通過して行く各各の種は、便益のみを當てにしてゐる。最少量の苦痛を要するものゝ方へ行く。……されば不成功が規則であつて、成功は例外で、しかも不完全である』。

四

僕は今、ベルグソンの此の創造的進化論が、如何なる社會事實からの暗示を受けてゐるかを觀る前に、先きに云つた諸生物學説に後戻りして、其等のものが社會の經濟狀態によつて製造せられ、又は促進せられたものである事を一言して置きたい。

エドモン・ペリエは其の著『ダーヰン以前の動物哲學』に於て、形態學の中に經濟學の思想が輸入せられてゐる事に喫驚してゐる。そしてヤイルン・エドワーヅが一八二七年に於て、經濟學の法則と一般生理學

の法則との間の一致を說いた、最初の人であると云つてゐる。實にエドワーヅは分業の思想を、又ダーキンは競爭の思想を、生物學に輸入したのであつた。

先きに云つたコープの如何にもパラドクスめいた心理學的動物學說も、亞米利加の經濟界と比較して見れば、容易に了解する事が出來る。コープに據れば、万事は其の當事者の活動によつて決せられる。『官能は進化の中の根本的重要のもので、從つて此の官能の原因と云ふ事が必要の問題となる。……運動の必然的準備は努力であると云ひ、又任意的運動と自働的運動との區別を云々すれば、私は形而上學的範圍に入るかも知れぬ。……けれども如何なる運動も其の實行せられた最初の時の外は自働的でないのを見れば、私は有らゆる運動の直接原因を努力であるとして認めなければならぬ。……努力とは或る意識的狀態である、乘り超えやうとする抵抗の感覺である、……されば意識は有機體進化の上昇的階梯に必ず缺く可らざるものである』。コープの此の文を讀んで、成上主義の亞米利加人が、其の努力によつて成功し富財を獲得しやうとする生活を、誰れか思ひ起さずにはゐられやう。ジエームスの意志哲學プラグマチズムなども、要するに此のヤンキー生活から出たものである。

ダーキンの云ふやうな微々たる變化が、何うして舊種に對する新變種の勝利を確めるのであらうかとは、今日ダーキニズムに對する最も恐ろしき反對論である。ダーキンのやうな賢明な學者が、此處に其の陶汰論を打崩して了うやうな異論の出る事を、何うして豫見し得なかつたのだらうか。しかし之れも當時勃興しかゝつた資本家制度の事を思へば、容易に其の無理もない事が分る。聰明な資本家は、一事業が思はしくなければ、其の事業の沒落を待つ前に、直ぐに其の活動の方向を變へる。一寸とした失敗があれば、それが直ちに他の事業へ移らしめる指針になる。此の精神狀態が生物學の中へ無意識に輸入せられたのである。そして人々も亦此の甚だ疑はしい假定を容易に承認したのである。即ち此の生產物競爭の原則が、生物學の中に假裝して入つて來たのである。

ラマルク說やダーキン說の一根底となる遺傳說に對して、當時の諸學者がやすやすと雷同したのも、要するに工業狀態のさせた業に過ぎない。當時の遺傳說は全く獨斷說であつたのである。そしてベルグソンの云ふが如く、スペンサーすらも、始めから此の說の眞僞を確める事を問題としなかつたのである。工業の急速な進步をした當時に於ては、前代の既得物が後代に利用せられると云ふ事は、疑を容るべくもない。又資本家にとつては之れが一大事である。そこで先づ其の證據を生物學の中に求め、次ぎに其れに基いた進化論から社會的結論を引いて來るやうになつた。

『生の科學』の著者トムソンが、ダーキン說は當時の工業狀態に最も都合の善かつた說である、と云ふ意味の誰れかの言葉を引いてゐるが如く、ダーキン說と資本家の心理狀態とを比較すれば、其の間に驚く可き多くの類似を發見する。

けれども今ベルグソンを主題として論じてゐる僕は、急いで其の本論に移らなければならぬ。次號にはベルグソンの進化論と睿智論と本能論とに就いて、或は更に進んで直覺論に就いて、多少の經濟史的解釋を下したい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

卑怯者の文學

荒畑寒村

曾て或る人が今の文士の書齋を窺つて、その藏書が外國若くは日本の文學書にのみ限られ、生物學にせよ、心理學にせよ、社會學にせよ、經濟學にせよ、そのスタンダード、チークと稱すべきものは何一つ無いのに、驚き且つ嘆いた。成る程、文士ならざる人が文士と稱する人々の書齋を窺いたら、如何にもその智識の範圍の限られ、その趣味の境域の狹く、その嗜好の偏せるに驚くに違ひない。然し乍ら、此の偏倚せる趣味の中に在つて、此の狹隘なる智識の藏書の間に蟄し、無關心の白眼を透して寫した社會を見よ。その觀察の余りに淺薄であり、その思索の余りに粗漏であり、而してその描寫の余りに的外れのした、上辷りの獨りよがりなのに、誰しも呆れざるは無からう。若し此の言に異論を挿むだけの勇敢な文士が一人でもあるならば、僕は夥しい證據を見せ付けてやる。過去十年間の日本の文壇には、寫實主義も流行り、自然主義も流行り、象徴主義も流行り、耽美主義も流行り、また新浪曼主義も流行つた、或は現に流行りつゝある。此の間、公けにされた夥しき作物の中、眞に人間胸奥の共通煩悶に觸れて、各人の社會的意識、階級的自覺を描いたものが、只だの一つでもあつた乎。暴風雨を胎んだ暗雲が、地平線上に重く懸れる如く、現代の社會制度を威嚇する勞働階級の自覺と反抗！ 白晝の都市の上を荒れ狂ふ蒼き電光と雷鳴のやうに、凡てを壓服せんとする資本家階級の驕傲と專横！ 此の中間に介在して、近世の産業が齎らせる資本の集中と生活の促迫の爲めに、その少數は資本家階級に經上り、大多數は勞働階級に轉落して、除々に滅亡して行く中流階級の苦悶と悲哀！ 凡て是等の現象は、無智にして無關心なる文士の見ると見ざるとに關せず、知れると知らざるとに拘はらず現代を横流し漲溢せる最大の社會的事實である。文士の描く戀の酬はれざるに泣き、生活の難きに苦しみ、努力の顧みられざるに憤る個人の感情の如きは、之に比すればいと少さきものなるのみならず、實は此の大なる社會的事實の中の一事相に過ぎないのである。故に此の根本の原因を成す社會の實狀そのものを知らずして、個人の心理とか、思想とか、感情とか、乃至性癖とかは、考へられず亦描かれざる筈である。

現代の日本の文士は、その創作上に於ても、將た批評上に於ても、根本的の謬想に陷つて居る。即ち彼等は、彼等が衆愚と嘲ける社會主義の勞働者さへも知つて居る『個人の意識が社會生活を定めるのでは無く、却つて社會生活が個人の意識を決定するものである。』との理を知らぬ。個人の

生活が社會的には如何に複雜を極め、如何に多數者の勞力の集合に俟てゐ乎を知らぬ。更に此の社會を維持する一切の生產の方法は、極めて社會的なるにも拘はらず、その分配に至つては、全く個人的に組織せられて居る。而して此の矛盾が、やがて一切の社會的欠陷の源となり、個人的煩悶の因をなすを知らぬ。彼等が謂ふ所の人生乃至個性とは抑々何であるか、彼等は是等の意味を極めて抽象的に、メタフキジカルにのみ解釋し、今日の資本家的經濟組織の上に築かれた社會制度が、個人の生活意識に及ぼす影響感化を外にして、人生だの、個性だのといふやうなもの丶存在しない事には、曾て想ひ到らないのである。彼等は靈魂と肉體とを二元的に考へ、且つ論ずるメタフキジシアンの如く、常に社會と個人、生活と思想、政治と文藝、物質と精神といふやうに、等しく二元的にのみ考へ、曾て其關係交涉に思ひを致さない。彼等の所謂無智な勞働者でさへも、社會主義書の手繙きを一二冊讀んだものなら、此の位の理窟は知つて居る。然るにそれをレフアインされた感情と、針の尖のやうに鋭い神經とを有つた文士に、嚙んで含めるやうに云つて聞かせなければならぬといふ事は、實に不思議な位ゐ滑稽な事だ。然し乍ら、文學書以外には何の智識をも趣味をも有せざる結果、夏目漱石の危なつかしい社會學の智識や森鷗外のお手前物の軍隊衛生の小出し位にも、驚嘆の目を睜る文士は、その藝術的勞作に於て、自個の陷つて居る迷妄と謬想とには、些しも氣が付かないのである。

若し文士が、自個の淺見と無智識とを蔽はんが爲めに、『そんな事は知らないでも、小說は書ける。』といふが如き、理窟にならざる負け惜みを云ふならば、僕は一の問ふべきものがある。文士は何故に現代を描き、現代人を描くのである乎。然も現代の社會と些の交涉なく、現代社會の基礎を形作る經濟組織と何の關係をも有せず、此の社會を支配せる政治を背景に有せざる現代人を描くのである乎。凡そ現代に生活せる何人として、此の社會制度、及び是に必隨する政治の影響を受けずに居るものは無い。然るに文士の描く個人は、その服裝や、言語や、一般の形式に於てこそ現代の人間であるけれ共、その思想や感情に至つては、全くかけ放れた他界の人である。文學上のリップ・ヴアン・ウキンクルである若し影を曳かない人間を幽靈だとするならば、彼等の描く人間は男にせよ女にせよ、些しも現代の影を地上に落して居ない幽靈である。曾ては硯友社派の所謂大家連が、職業の如くに、商賣の如

くに、戀をして居る男女を描くのに對し、如何して飯を喰つて居るのだと痛烈な批評を酬ひ、彼等を目して戯作者と罵つた當年の新進作家は、今やその後を襲ふて全く新らしい戯作者となり了つた。誰か彼等の作物を讀んで、痛切に現代人の社會意識に觸れ、その階級的自覺に觸れ、經濟上の自由と平等とに對する、その切實なる思慕と努力とに觸れる者があらう乎。生産と分配との間の矛盾撞着が、當然惹起する資本家及び勞働者の二大階級の抗爭。そして此の抗爭が、今日の社會制度を維持し、支配する思想、科學、道德、倫理に及ぼす影響等は、彼等の作物には、その片影だに認むべくも無い。七五三に尻を端折つて、水淺黄の襦袢の裾をチラチラさせ、鮫鞘の脇差に女と揃ひの手拭ひで頰被り、揚幕をパタパタで出て、花道の七三で女がつまづいて轉ぶと、『ア、これ』といふやうな小說ばかりではない乎。橋の袂に柳のある本舞臺にかゝつて、『今更云ふも返られど』と云ふやうな科白があつたげ、女が手拭ひを口に咬へて、床の淸元に連れて踴つたり、本釣の音を合圖に、川向ふの白い土藏の並んだ書割の上に、月が出たりする小說ばかりではない乎。船宿の中二階か何かで、『おや自烈てえ、いつそ憎らしいヨ。』だの『そうス』だのと云つて居る小說ばかりではない乎。

實に彼等の所謂藝術品なるものは、人生に對する同情ある觀察の結果でなくして、單に茶氣滿々たるお芝居に過ぎないのである。勿論、獨りその藝術的作品が、人生に對する嚴肅な觀察と、暖かき同情と、深き理解とを欠いて居るばかりでは無い。彼等の實際生活そのものに、何處に眞摯と熱誠とを索むる事が出來る乎。『吾等が祖先は農奴の勞力を掠奪して來た、吾等は彼等の爲に働かねばならぬ。』と呼び、その富と、位置と、奢侈と、名聞とを抛つて人民の間に往ける、十九世紀中葉の露國青年の高潔なる思想は、曾て彼等の心頭に上つたらう乎。ドレフユス事件の起るや、『吾は彈劾す！』と呼んでオーソリテイに反抗した、不義を憎むゾラの熱情の十分の一だも、彼等の衷に書出す事が出來やう乎。一千九百五年一月廿一日有名なる流血日曜（ブラツデイ・サンデー）の前日、教父ガポンが率ゆる平和なる勞働軍の殺戮の中止を、政府に極言して獄に投ぜられたゴリキーの勇氣に到つては、卑怯にして懦弱なる日本の文士の、到底企て及ばざる處である。彼等はパアナアド・ショウを評し、アナトール・フランスを論ずる。然もショウやフランスが社會主義者である事實さへも、果して幾人の知れる者があるだらう乎。自分の呼吸迄も他人にして貰ふやうな、不生産的な、懶惰な生活を送り乍ら、壓制と、悲慘と、窮乏と、無智との下に、呻き惱

んで居る同胞の存在に就て、また三千年來その祖先を通して、彼等の勞力を掠奪し來れる自個の生活に就て、曾て一度も顧慮した事が無い。多數の同胞は肺結咯の末期に在つて、猶且つ劇烈なる勞働に從はざる可らざる時、獨り無爲より生ずる生の倦怠に悶へ、個性の權威を口にし乍ら、そのコンベンショナルな、スレーヂッシな社會生活を改めないのは文士である。彼等が衆愚と嘲けり、モッブと罵る大多數の民衆さへも、もつと自由に呼吸の出來る、眞理と信ずる事を口にしても絞め殺されない、了解と正義の上に建てられた、意義のある、合理的な生活に對つて、慘ましい犧牲を拂ひつゝ努力を續けて居る時、精神的手淫病者の如く、色戀のみを描いて居るのは文士である。現代の社會制度の基礎を成す生産分配の組織の矛盾から生ずる、資本家對勞働者の二大階級の抗爭が必然にその舊き衣を脱して、更に正しき經濟關係の上に築かれたる、新しき社會を形作りつゝある時、空しく逝きにし時代を懷かしみ、舊き文明に憧かれて居るものは文士である。嗚呼、萬人の胸奧に横溢する共通の煩悶に對する同情も無く、又暗默の裡に進んで止まざる時代を理解する智識をも欠ける、盲者の手引なる盲者よ！

然らば何故に文士は、爾く薄冷な感情と、淺狹な智識より有さないのである乎。隨つて亦、何故にその創作上にも批評上にも、根本的の謬想に陷つて居るのを知らずに居るの乎。第一に、そして何よりも、彼等は戰鬪の勇氣を欠いた卑怯者である。人生が、ノーマルな理解力を有する者にとつて、殆んど解すべからざる矛盾と過誤に充ちて居るのに、同胞が、暖かき同情と、奸惡に對する熾烈なるペンジャンスの精神とを有する者の、堪へ忍ぶべからざる壓制と患苦に惱んで居るのに、文士は何故にブルジョアシーの青年男女や、藝妓と若旦那の戀の煩悶ばかり描いて居るの乎。何故に吾々の上に蔽ひ被さつて居る社會的大事實に當面し、直視しないのである乎。戀愛の煩悶は藝術品の題材とし得る、然し乍ら、その根本原因たる社會制度、經濟組織そのものや、又は此の社會を根底より搖がして居る二大階級の抗爭は、藝術的作物とするに足らぬといふの乎。卑怯者よ！　諸君の黨與たる批評家さへも、恐らくゾラや、ゴリキーや、ショーや、ガルスワーシーの傑作を以て、田山花袋や、永井荷風の作物の下に置くものは無いであらう。第二に、文士は個人の社會生活に對して同情を有さぬのみでなく、社會の實狀そのものに就て、全く何事も知る處が無い。即ち前にも記した如く、現代社會の根底を成す經濟組織の一大矛盾が、やがて個人の社會生活に、一切の過誤と、迷妄と、謬想と悲慘とを齎らすものだといふ事を解せず、基督教の所謂原罪論の

如く、個人の悲慘、罪悪は、悉く是れを個性とか、運命とかいふものゝみに歸して居る。その屢々口にする個人主義の如きも、個人の自覺と、推理と、努力とが、社會進化の上に大なる力を有する事を知らず、亦、斯の如き社會と、道徳思想とに反抗する、勇敢なる個人に就ては何事も知る事なく、徒らに現代の語を使つて江戸時代の思想を懐き、地に影を曳かずに歩む幽靈をのみ描いて居る。此の現代人の生活に對する同情の欠乏と、社會制度に關する智識の絶無とは、相俟つて文士をして、嚴粛なる社會の實狀を傍觀し、熾烈なる人生の戰闘を逃避する卑怯者たらしめ了つたのである。そして彼等は、或は耽美主義とか、或は新浪曼主義とかいふ名の下に、諦らめの人生觀を作り、諦らめの哲學を作り、諦らめの藝術を作り上げて居る。然し乍ら、彼等がその根本の謬想を自覺せざる限り、寫實主義は自然主義と變り、自然主義は象徴主義に移り、象徴主義は耽美主義に轉じ　耽美主義は新浪曼主義に化さうとも、その作物は依然として俄か芝居の反復に過ぎず、卑怯者の文學に過ぎないのである。而して亦、此の境地より更に一歩を脱せざる限り、意識的にせよ無意識的にせよ、彼等は事實に於て紳士閥の幇間となり、權力階級の奴隷となつて、猛火の如く燃へ上らんとしつゝある平民階級の反抗的精神に、諦らめの水を注ぐ役割を勤めて居るのである。

旅情

土岐哀果

*

發車に、迫りし時に、
　あわただしく、
かをりよき煙草を、かひにたるかな。

*

靴ぬぎて、
　座席のうへに、膝くみぬ。
春の夜の車窓は、閉ぢてあり、みな。

*

汽車をおりて、すぐに、くるまに
　のりたれば、
雪おろしの夜風が、瞳（ひとみ）に沁みき。

*

遊廓の道を知らねば、三月の、
半夜の辻に、
　星をながめつ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

*

縣廳のまへの大道、――
　まよなかの、
春なりしかば、小便したり。

*

ゑびざめの、水のほしさに、
　白きもめんの、
かいまきの襟を、かなしみにけり。

*

トロツコは、辷り(すべ)に辷り(すべ)、
　遠近の、
山邊の雪は、かがやきにけり。

*

山の雪。――
　近眼鏡をはづしつつ、
胸より腹まで、いきを吸へりけり。

*

石きりの、一ぷくすれば、
　かれ草のうへ、
栗が二つ三つ、ころがりにけり。

*

一隊の騎兵過ぎしが、
　青麥に、
うつすりと、埃迷ふなりけり。

*

トロツコの上、日光のなかに、
　うづくまる、
都市居住者は、かなしきかなや。

*

やうやう、たばこに、火のつきしとき、
　しみじみと、
日光連山に、雪のつもれり。

*

遠山に、雪はみゆるに、
　みやこには、
妻は、むすめに、泣かれてあるらむ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

畫廊にて(外三篇)

佐藤綠葉

一つ一つ階段を踏んで行く時、
靴の音は快く樓上の壁に鳴る。

畫室には若々しい吾々の「同時代」と、
テレピンの鼻をつく生きたる匂ひ!

石膏の胸像は眼に白く、痛く泌み、
「服藥」の頰の血は怪しくもづき〴〵と胸をつく。

(疲れたるわが胸よ)
廊に出でしばし見る窓外の濠割の水。

呆然とたゞずむ時の
わが皮膚のなつかしき輕き汗。

何處よりか響きくる呟きは?
わが知れる、階下なる、職工の「活字返し」か。

註、「服藥」——フエウザン會、川上涼花氏作。

幻影

御身は不思議なる——美くしき——女なる哉。

御身と tête-a-tête にて話す時、
わが心は靜かに、
わが胸は落ちついて、
何事もないやうにおだやかなれど……。

彼の小さなる手鞄の銀の蔓はわが眼に殘り、
華やかに笑ふ時、白き齒に輝く金は、
いつまでもわがメモに泌みこんでゐる。

不思議なるわが友よ。

(小さなる美くしき小鳥よ)と、
わが心はかく叫びしが、
時を經るに從ひて、わが胸に描かれし君が姿は、
酒の如く醱酵し、怪しくも變りつゝあり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

われをして御身の頬に、
美くしき銀のメスを刺さしめよ。
然らざれば素裸體にして、
サロメをば踊らしめ、踝を見せしめよ。
快活にして――美くしき――わが若き友！

對座

暗き部屋に對座する時、
なにげなくつくろへるわが顔に反對し、
空想はかくもとびゆく。

「その手をばいざ握れ」
「おひだなる火鉢をば突きたほせ」
「色白き頬を斬れ」
「火のごとき Kiss をばとりかはせ、いざ！」

何ごとぞ、
靜やかに立ちあがり彼女は歸る、
美くしき時計をば盗まれしわれの失望。

歸るみち

一日の仕事につかれ、
氣は重く、心は暗く、且つ腹はへり、
銀座より飛び乘る電車。

室内の電燈は赭ちやけて曇り、
勞働者のつく息は毒瓦斯の煙のやうに、
どんよりと、煤ばんだ玻璃窓に這ふ。

わが靴の尖は隣人の草鞋に踏まれ、
ポケットの大切な買物は人込みに潰れんとす、
押しあへる乘客の蒼い顔、草臥れた苦い倦怠！

腰掛に並んだ顔の、聲もない物憂いあくび、
「あア」と開く眼の前の大きな口に
われもまた連れられて――憐むべし――長いあく
び。

（外光は今くれてゆく…………）

金を懐に入れて

上山草人

金をふところに入れて
双手を入れて
臍のあたりの暖く
ほつそりとした我が胴を
我が手に巻くも快し

役者する手でたまに縫ふ
千枝が見立ての糸織の
紺の刷毛目に反身して
肩から滑る袖口を引くものあれと
松の葉に

ぶらり〳〵と金六町を
カフエーへ通ふ雪解路

鐙と光る黒塗車
春がせばめた街巾を
花道と見る紙治ごゝろ
七三どころで下駄さばき
つい追羽子の邪魔をして
うつかり足袋を泥濘へ

金をふところに入れて、
双手を入れて
臍のあたりの暖く
ほつそりとした我が胴を
我が手に巻くも快し。

腹がへつたあ！

Si vi pacem, para bellum.

柴

或日。

A、お互ひに仲善く暮してゐんで嬉しいよ。見給へ、今日こんな善い棒を買つた。

B、本當に善い棒だ。頭あぶち破るには持つて來いだ。お互ひに仲の善いのはお目出度いよ。俺れも一ッそんな棒を買つて來やう。

數日後。

A、あの棒は野蠻人に遣つちやつた。考へて見れや、棒で毆り合うなんて、餘んまりひどいからなあ。其の代りこんどは劍を買つて來た。棒よりや振廻はすにも樂だし、見た處もよつぽど立派だ。斯うして皆んな仲善くして暮してゐんで何によりだよ。

B、成程これや善い劍だ。俺れも早速買つて來ゐとしやう。尤もウチには金が無くつて困つてゐんだが………

又數日後。

A、オイ、早く見に來いよ。こんどは鐵砲を買つて來た。劍なんかより何れ程有力だか知れやしない。しかしまあ藏つて置かう……お互ひに平和に暮してゐんだかられえ。

B、善い鐵砲だなあ。俺れも一つ買つて來やう。

B家に歸り、其の妻に向ひ、

B、鐵砲を買うんだから少し金をくれい。

妻、鐵砲？　お前さん、氣でも狂ひやしないかえ。ウチにや子供の着物を買う金もありやしないんだよ。

B、ぢや少し借りて來いよ。

妻、だつて、もう質に置くにも、何んにも剝ぐものあないんだもの。

B、今に子供共が大きくなつたら、俺達の借金を返してくれらあ、早く何處かへ行つて借りて來い。

子供等泣き叫ぶ。

腹がへつたあ！

B、默れ、餓鬼共！　手前達や餓え死するまで腹へらしてゐりや善いんだ。愚圖々々ぬかすとぶち殺すぞ。

母と子供等と相抱いて泣く。

腹がへつたあ！

トルストイの思想

寒村

横暴なるロシアの政府が
トルストイに一指を加へざりしを見て
彼の思想に權威を附するや
笑ふべき近視眼者流よ
彼の說きしは絕對的無抵抗主義なりき
上に在りて權を執る者に服從し
惡に逆らふ勿れといふに在りき
そのシベアリに流されざりしは
彼の說に權威ありし爲にあらず
只だ奸惡と不正とに慣ほれる
民衆の反抗を殺す力ありしが爲のみ。

ハサミ將棊

小劍

▲小供の時、ハサミ將棊を差すと、私はよく駒を斜めに並べて盤の一角を占領し、如何にするも敵の駒の侵入することの出來ない空地へ、自分の駒を一つ置いて、それを右に左に上に下に動かしつゝ、勝つことの出來ない代りに、負けることもない安全さを喜んでゐた。

▲今、私はこのハサミ將棊のやうな生活法をとつて見たいと頻りに考へてゐる。

▲私は小供の時から臆病ものであつた。學校で教師から讀み方を指定されるのが、擲られるよりもつらかつた。多くの人の見る前に身體を曝らすといふことが厭やでならなかつた。

▲小供の時の心は何時まで經つても矢張り私の心である。人々の前に立つて演説をするといふやうなことは何うしても出來ない、自分が演説なぞいふことをするのが厭やなばかりでなく、他人の演説といふものを聽くのも、何んだかハラ〱して厭やだ。

▲地方なぞへ行くと、何うかした拍子に私のやうなものゝ泊つてゐる宿屋を探し出して、訪ねて來られる人がある。それにお目にかゝるのはまだよいが、歡迎會を開かうといふやうなことになると先方はお世辭の積りであらうが、此方は何と答へてよいか大に困つて、夜逃げ同樣に出立したことも一度ぐらゐはあつた。

▲なるだけ人に顏を合はさないやうにして生活してゐたい。懇意な五六人の人には始終會つて話もしたいが、知らない人に會ふのは怖ろしいやうな氣がする。給金を貰つて店へ勤めるといふやうなことも、なるならばしたくない。久しく勤めてゐる店ならば知つてゐる人も多いからまだよいが、給金が多く貰へるにしても、知らない店へ新らしく勤めに行くのは厭やだ。

▲書くものゝ註文が郵便で來ると、期日までに書いたものを郵便で送る、そしてまた郵便で金を貰ふ。——今の社會のいろ〱の機關の中で郵便といふものが最も進歩してゐる——斯うした生活が一番よい。書付を持つて郵便局へ金を貰ひに行くのは一番厭やだが、それは使をやつても濟むし、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近頃は居宅拂ひといふことも行はれて郵便局から金を持つて來て呉れる。この方法によつて支拂ひをしてゐる雜誌社もある。

▲友だちがよく『君は引つ込み思案だね』といふ。少しでも私が文學なぞをやつて行くのは、日本の文學が由來隱遁的の分子を含んでゐるから、其處が好きなのだ。若しこれが或る人々のいふやうに全く社交的の職業になつて、オペラ帽や夜會服を着けて、借り自動車にでも乘らなければ勤まらぬものになつたら、私のやうな臆病ものは、また別に穴を見付けて其處に潜り込まねばならぬ。

▲成るたけ薄暗い、戸袋の上あたりに網を張つて餌食の引つかゝるのを待つ蜘蛛のやうな生活がしたい。――勝つこともなければ、負けることもない、安全なハサミ將棊が差したい。

▲六十、七十にもなつて、政治だ、實業だといつて騷ぐことの好きな人がある。そんなことをしなくとも生活に困る譯ではなからうに、何故あんなに血眼になりたいのであらうか。私ならば靜かな家の日あたりのよい椽側で、日なたボッコをしながら、大きな眼鏡でもかけて、新聞の講談でも讀んでゐるのになア、と齒がゆく思ふ。

▲私が織田信長であつたら、清洲の城を今川義元にでも賣つて、其の金を懷中に、京都の嵯峨あたりに住んで、都踊りでも見て、美しい女と二人で暮らしてゐたであらう。

▲私が豐臣秀吉であつたら、長濱の城主くらゐに出世するまでに、ウンと貯金をして、尾張の中村へ引ッ込んで、田地でも買つて、中村第一の美人とそれこそハサミ將棊でも差して遊んでゐたのに

▲私が德川家康であつたら……………………

▲私が桂太郎であつたら……………………

▲私が私であつたら……………………。

■近代思想社講演會■

本月第二、若くば第三の日曜日を卜し、近代思想社講演會を開き、同人堺利彦、安成貞雄、高畠素之、荒畑寒村、大杉榮等の外、馬場孤蝶、生田長江二氏の演説あり、時日及び會場は、確定次第新聞紙上に廣告すべし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ファウスト論（上）

社會主義的見地から試みた批評

荒畑寒村

一

ゲエテのファウストが、必然に想ひ出させるのはダンテの神曲及びミルトンの失樂園だ。若しダンテの戯曲が、雄大なる嚴肅を以て生命とするなら、ミルトンの詩は崇高なる勇氣を以て特質をなして居る。然るにゲエテのファウストは殆んど人間的で、又それが爲に一層近代的であり、隨つて面白いとも云へる。ダンテとミルトンとは共に獨斷的宗教の迷信に捉はれて居るが、ゲエテに至つては寧ろ哲學的だ。彼は獨斷說から離れて更に新なる基礎を求めんとした。勿論それが果して人類全體に求めらるゝ乎、或は單にその善い部分に於てのみ乎、或は永遠なる女性に於てか明かではないが、兎に角人類中に見出さんとした事は事實だ。

ファウストのみではない、メフヰストフエレスも、神さへも、非常に吾々に近いやうに感ずる。が、其は眞に個人主義の意味に於てのみ人間的なので、その失敗と偏倚との原因もまた玆に在るのだ。天上の生活は如何にもあれ、其處に生存する個人は如何に完全にもせよ、將社會的感化から自由に獨立して居るにもせよ、尠くとも此の涙の谷に在つては、生活に個人的及び社會的の二面が在るのは事實だ。故に文學が紳士閥の玩弄物として、慰さみに作られて居る限り、一方のみを取扱つて他を等閑に附するのは、その當初から根本的に誤まつて居るものだ。凡そ階級的文明の下に於ける一切の文學は、一切の科學と等しく玩弄物に過ぎないので僅かに偶然的の外、決して直接に人類の發達に貢献するものではない。科學と發明とは常に紳士閥の利益の爲にのみ利用され、且つ一切の發見は單に利用の原野を擴め、そして紳士閥をして一層肥滿せしむるに過ぎない。玩弄的藝術は即ち此の階級の慰さみに供せらるゝので、其の常に社會の表面にのみ關はつて、眞に人間の産物たるの威嚴に立ち現はれざる所以である。

ファウストをしてその一切の科學と研究とを嫌厭せしめ、他の多くの學者が感じたやうに、彼が全人類との接觸の外に在る事を知らしめたのは、實に彼の心を蔽せる此の事實の信念であつた。若し彼をして、その自由に他方面に濫費せる反省的精神の一部をだにも、個人と社會、善と惡との意味の研究に對つて献げたならば、是等の事物の教訓者として、惡魔を呼び迎ふるに及ばなかつたであらう。

二

ファウストは靜止せざる、研究心の強い、何へでも首を突込む癖に、決して滿足した事が無い。彼はメフヰストフエレスと選ぶ處なき惡魔だが、只だ種類が違ふだけだ。實にメフヰストよりは寧ろミルトンのサタンといふ格で、反抗的で、大膽で、率直で、輕蔑的だ。メフヰストが復活祭の鐘の音を聞いて、自殺を止めたファウストを嘲けるや、彼は一切は幻想に過ぎずとは知れるものから、猶且つ一時古き回想の呪文の下に在た事を承認し、且つ激烈な語を以て一切を呪詛する。（森博士譯『ファウスト』第一部一五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八〇より一六〇五參照）それから最後のアクトに於て、彼が『注意』と呼ぶ灰色の女にする信仰告白も、また全く是と全じ精神である。

此の響きは全くサタン的でなつて、毫もメフキストらしい處は無い。如何にも深刻でそして傷心的だ。ノアウストの靈魂を失つた時のメフキストの懊惱さへも、決して是れ程眞摯誠實には聞へない。それは實にオリムパスの神々を侮蔑し、自由に對する向上的努力に於て、人類を扶くるプロメゼアスの眞精神を呼吸するものだ。

フアウストは悔恨無く、また他人に如何なる影響を及ぼす乎といふ事に頓着せず、前進努力する。彼の個人的及び社會的進歩は兩つ乍ら是れ他人の力に依て爲されたのだ。吾々が反對する處は是が必然に、また不斷に、斯くあるべき筈だといふ假定である。又、若し他を殘害する力が失なつたら、最早人間の到達せんとして努力する目的が無い。如何なる種類にもあれ、熱心或は大望に對する余地が無いといふ假定である。自分獨りで樂しむのは搆はぬが、他を失脚せしめて樂しむに至つては、他人の金で贅澤をするに至つては、他人の勞力とその境遇の無智とを利用して、自己の最後の幸福に到達するに至つては、吾々は斷じて反對せざるを得ぬ。フアウストをして都合よくその進歩の跡に殘された影響を忘れしめ、その上の發達の結果に就て盲目ならしむる上品なる無智は、メフキストの不誠實と等しく惡魔的である。フアウストもまたメフキストと全じ自個放恣を有して居るが、猶且つ、前方に突進する衝動を止めて居る。

然らば何處に兩者の差違が在る乎と云へば、フアウストの積極的なるに反して、メフキストは消極的なのだ。そしてフアウストの特殊な價値は、その倦まざる努力、肉慾に飽いた後と雖も止まず、何物かを成就せんとする奮鬪の衝動に在ると云はれて居る。一寸聞くと如何にも尤もだが、然らば何に對つて奮鬪努力するのである乎。只だ他人を利用し殘害する事のみだ、是が階級的國家に於ける唯一の努力であり、また是より生ずる唯一の理想なのだ。故にフアウストはメフキストが更に大なる肉的快樂を提供せんとするを顧みず、『主權と財産こそは、吾が得んとする物なれ』と云ふ。然し、若しフアウストにしてその努力を他方に轉じ、倦まず撓まず研究し、個人的及び社會的生活の間の鬪爭を解决せんが爲めに、實社會に當面したならば、恐らく彼はその嫌厭せる學問の必要を發見し、進歩と完全との他の異なれる結論に達したに違ひない。

三

フアウストとメフキストとの契約（『フアウスト』第一部一七一五より一七三五參照）は、單に敬神家と神との契約を逆に行つた物に過ぎないので、共に紳士閥社會の模型的契約である。敬神家は來世の酬ひを當にして、今世に於る自由を抛つて神に仕へる。フアウストは未來では惡魔に仕へる誓ひ、今生で自由と、飽足とを要求する。形式に差こそあれ、精神は共に無力なる人間と、超自然力との契約であつて、やがて主人と從者との契約の基礎を爲すものである。契約は自由だといふが、それは神か然らずんば惡魔に限られた自由だ。若し吾々が初めに斯の如き超自然力を假定するなら、その血判せる人間との契約は、眞に恐ろしい悲劇の基礎を作るものと云はればならぬ。此の契約に依れる現在の幸福、

若くは來世の救ひと云ふ思想は、明らかにアダムとイヴの傳説から出たものである。只だイヴが欺瞞されて踏み込んだ道を、ファウストは眼を開いて結果を明らかに豫期して歩んだだけだ。故に結果の幸福にも拘はらず、最も大なる意味に於て、人間生活の悲劇と呼ぶ事が出來る。そのグレエトヘンの挿話の如きは、全體から見れば單に物語の偶然な出來事に過ぎない。

然し乍ら、吾々が更に廣い經驗と、事物の一層善い了解との後に、人間の幸福或は悲哀を決定すると假定せる運命、又は超自然力が、實は只だ社會の組織的經濟力に過ぎなかつた。そしてファウストをして犬の生活に陷らしめた富、名譽、及び社會的權力の缺乏が、神の豫じめ定めた運命の爲では無く、歴史的進化に依て作られた社會の組織の爲であつた。又、更に一層の歴史的發達に依て、社會がファウストに富と、名譽と、權力とを與へて、その愁訴の原因を除き、犬の代りに人間の如く感ぜしむるやうに改められる事を知つた時、抑々何が起るだらう乎。何でも無いのだ、只だ所謂人間の悲劇の基礎が失なつて了ふのだ。超自然力が消滅するのだ。明らかになつた心は此の生活を嫌厭し、そして紳士閥的天國を望む事に依てでは無く、勞働の呪ひから自由になつて、その活働の變化と、他人との協力の喜びと、彼等を教訓し彼等からも學ぶ事の意識とに、滿足を見出すのだ。其時には最早、卑屈な絶望的な恐怖の意味に於ける運命の悲劇は無い。在るのは既知の了解と、道德的信念と、現在の未知もやがては既知の事實となる事の確信の上に置かれた、聰明な靜肅と愉快とである。(未完)

社會と文藝

榮

二十二日の晩、例の鴻の巣で第三回小集を開いた。御客の抱月御風二氏には、『社會と文藝』と云ふ題で、何にか御話を願つて置いたのだが、準備がしてないと云ふので、先づ安成貞雄から御風氏に質問を發して、それで話の火ぶたが切れた。貞雄の質問は、讀賣の日曜附錄にあつた御風氏の『科學の人生化』に對して向けられたので、全體の文意よりは寧ろ餘程文字に拘泥したものであつた。しかし御風氏の答によつてそれも了解せられた。

要するに御風氏の議論は、從來の科學者が只科學の眞理を發見するに熱心であるのみで、それと人生との交渉を忘却してゐる、科學者は其の眞理を更に意志化して、人生社會に對する其の勤めを完成しなければならぬ、文藝とても矢張り同じ事である、吾々は最早、單なる美のエクスタシーに醉う事は出來ない、社會進化の大勢に於ける、新しき社會的創造の軍歌と云ふやうな、本當の意味の傾向的文藝を要求する、と云ふに在る。御風氏の此の説は猶二月號の早稻田文學に、雄大なる文字を以て詳説せられてゐる

此處までは御風氏と僕等と一致する。只僕等には此の社會的創造其者に就いての一種のドグマがある。御風氏にはまだ何等のドグマもない。そして僕等は、僕等の此のドグマに對する氏の批評をまだ一言も聞く事が出來ないのを遺憾とする。

尤も抱月氏は、文藝の第一義として、所謂靜かなる觀照と美のエクスタシーとを重んじてゐるらしい。

超人の戀

――ショウ劇『人と超人』評論――

大杉榮

一

ショウ劇は、他の多くの劇のやうに、其の描寫の眞とか其の情緒の力とかを測つたばかりで、判斷する事は出來ない。之れを味ひ又理解する爲めには、先づ其の思想の内容に立入らなければならぬ。劇中人物の性格や感情や動作までが、總て彼れの思想に係つてゐる。

此の見解からショウ劇を強いて分類すると、(一)社會的現實の曝露、(二)心理學、(三)倫理學及び(四)社會哲學の四となる。『貧民長家』と『ワーレン夫人の職業』とは第一に屬し、『武器と人』『シーザとクレオパトラ』『分るものでムいません』及び『人と超人』とは第二に屬し、『カンヂダ』『ブラスバウンド大尉の改宗』『惡魔の弟子』及び『ドクトルの板挾み』は第三に屬し、『結婚』『ジョン・ブル』『バルバラ少佐』及び『ボスネットの露現』は第四に屬する。

そして此の第二の心理劇の中にも、戀愛心理を主題としたものが、其の價値も最も高く、亦其の内容も最も豐富である。

二

ショウ劇中の情夫は、互ひに性質の相違もあり程度の差違もあるが、その本質は只一つの型の中に入つてゐる事が認められる。即ちショウ劇の情夫は、一切の約束に對して猛烈に反逆し、只女と自分との中に在る人性を自分に示顯して貰ひたいが爲めに、女を求めると云ふ男の型である。社會的現實界に於て結婚を意味する、戀愛を怖れてゐる。そして心理的現實界に於て生の充實と經驗の野の擴大と情愛の開花とを意味する、戀愛を憧れてゐる。其處に感情の衝突がある、傾向の撞着がある、即ち劇的闘爭がある。

ショウ劇の情夫は最早ローマンチクでない、ローマネスクでない。青年の想像を、純潔エーテル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の如き天女のまします夢の樂園にさ迷はすやうな、無邪氣な有頂天を嘲つてゐる。『家庭の樂しみ』の上に激流となつて注ぎかゝる、ブールジョワの情慾を蔑にしてゐる。其の理想は、夢の妄想よりも情感の甘味よりも、もつと高い。戀愛は權利である、戀愛は强い、戀愛は勝つ。ショーペンハワーは彼れに敎へた。戀愛は種の永遠と云ふ至上の目的の爲めに定められた法則である。そして此の戀が情人の眼に色彩られる曉の色合や亂心の激情は狡猾なる自然が設けた陷穽に過ぎないと。斯うして戀愛は、丁度玩弄品が自分を最も自由であると信じてゐる時に横取りせられる如く、情人を生捕つて了ふ。哲學的反省に馴らされてゐない人々は極めて馬鹿々々しい想像の罔にかけられて、直ちに宇宙の意志、更にショウの言葉に據れば、生の力の掌中に陷つて了ふ。しかしショウ劇の人物は戀の雷に打たれて倒れても、自ら其の負けた事を自覺してゐる。且つ此の危險に對して十分抵抗した後でなければ倒れない。

しかしショウ劇の情夫は、頑固に獨身を守つて其の巧妙な奇論の下に好色の情を隱して、戀の負擔を避けつゝ其の實を摘み採つて歩るくと云ふやうなのではない。一種の淸敎徒的信仰を持つて、唇に微笑を浮べながら、眞理の勝利の爲めに所謂德義の卑怯と僞善と戰ふ、節欲の人である、敢勇の人である。半ば疑懼によつて、半ば哲學的解脫によつて、結婚の制度を逃げる。定まつた約束や慣習の欺瞞や日々の勤めの束約に慄える。『家畜化』の無味と卑陋とを誹る。少なくとも彼れは、決して卑しい利己的の人でない、獵色の人でない其の靜かなアイロニカルな勇氣を以て、女の魔術を遁れ、又罪惡幇助の此の社會に倒れた女を保護する力はある。彼れは强い。けれども彼れも亦戀を知りたい。經驗を重ねたい。有らゆる觀察の泉を掬みたい。人性の底の底まで測りたい。全生を生きたい。藝術家たる彼れは、兩性の關係に結付いた苦樂を嘗めたい。女の心を探險すると同時に自分の中に在る未だ知られざる隱れ場所に探り入りたい、之れが爲めには自由を要する。社會的義務の重荷を輕くする放浪的喜悅を要する。理想家たる彼れは亦、啻に生の完全なる智識の爲めのみならず、猶重苦しい僻見と妄想との下に腰折れて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐる人性の更生の爲めに、獨立を要する。最後に社會主義者たる彼れは、情感的なる、傳習的なるそして常に進歩の道に保守と平和との力を投ずる女と結付く事を欲しない。

　且つショウ劇の人物は科學と道理とによつて、實在の蘊奥に入り、兩性吸引の万能力と生の力の抵抗し得べからざる勢とを知つてゐる。自己内心の諸傾向の間の、及び自己の嗜欲と外的力との間の重大なる闘爭、即ち思索家と人との間の、理想家と肉の人との間の、清敎徒と藝術家との間の、讓歩や妥協を知らない個人主義者と社會との間の闘爭、最後に有らゆる他の闘爭を其の中に包含する男と女との間の闘爭を自覺してゐる。

三

　ショウは其の最初の劇を作つた頃から、彼れの思想と密切なアフィニテのある事を發見した、ニーチエに親しんでゐる。『人と超人』の主人公たるターナは、最早ミットメンシュでない、凡人でない。情感にも僻見にも弱味にも拖込まれない、そして思想と活動と力の意思との爲めに生きてゐる超人の代表者である。尤も此の超人はニーチエのユーバーメンシュと餘程違つてゐる。社會主義劇作者の思想から生れた此の超人は、其の餘の同類に接近して、其の精力と天才とを凡人の向上の爲めに盡さうと云つてゐる。彼れは生物學から出發した倫理學を持つてゐる。社會の原始事實を生の源たる戀愛であると觀てゐる。そして此の戀愛に於ける個人の意思と社會の意志と、即ち利己主義と愛他主義との間に生ずる闘爭を、鋭過ぎる程に自覺してゐる。此の闘爭は凡人にはない。凡人は感情に支配せられ、傳習に服從し、世間に盲從し何んの抵抗もなく結婚制度に降參して、『家畜飼ひ』に墮落して了ふ。けれども思想の創造家たり藝術家たり詩人たるターナは、個性の權利の名の下に、此の從屬に反逆する。

　理想家たるターナは、群集を侮蔑する。一般道德の義務を輕んずる。自ら主人人種であると感じてゐる。此の點はニーチエのユーバーメンシュに似てゐる。彼れはニーチエの封建武士が槍を操つたやうに、諷刺嘲笑を操る。又ニーチエの賢者の如く、自ら苦む事を恐れない。少なくとも其の云ふ處に據れば、人を苦ます事をも恐れない。只タ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ーナは常に好戰的反抗の態度には出るが、至つて平和的である。熱情の勢當る可らざるものもあるが、アイロニストである。墮落したる同類に罵詈を浴うもするが、社會主義者である。且つ彼れは富豪である。生活の必要に迫られない。斯くして彼れは天稟からは貴族であり、正義の渴望からは平民である。個人としては其の自我を立派に育成し、種の一員としては共同の感情に與つてゐる。彼れは文明の虛僞と卑吝とを呪ふ。しかし之れも社會的理想を要求する爲めである。ショウは此等の諸點に於て其の獨創を出してゐる。

四

此の超人と性の闘爭をする相手がなければならぬ。即ちショウはアンを創り出した。アンも亦凡人ではない。若しターナをして意識的思想と理想の力とを代表せしむれば、又睿智の靈であるとすれば、アンは永遠を欲する生を代表するものである、生氣の靈である。男は新しき思想を創造し、女は新しき存在を創造する。

自然の此の二要素は、人類の運命を完成せんが爲めに、一は他を他は一を、互ひに必要とするものである。けれども其處に矛盾がある。生の悲劇と喜劇とが起る。

知識を欲し、歡樂の有らゆる顫動と存在の有らゆる形式とを知らんと欲し、人の心を淸め且つ高めんが爲めにそれを探索せんと欲する思想家ターナは、戀愛を渴望してゐる。しかし彼れは又、其の自我の錯亂を恐れてゐる。啻に彼れを父と爲さんとするのみならず、更に家畜飼ひと爲さんとする、女の本能を嫌つてゐる。ブールジョワ道德の支配してゐる今日の社會に於ては、ドン・ジュアンは、其の古しの功名を斷念して、隱遁者たらざるを得なくなる。其の溢れるやうな生氣と。其の貴族的傲慢とを、只思想の範圍の中に消費する。今はもう婚姻の陷穽に過ぎなくなつた色戀の冒險を避けるやうに、大なる努力を盡す。

斯くして女は、性の闘爭に於て、攻擊的態度を取らねばならぬ事となる。女は其の誘惑の永遠の武器たる嬌媚を凝らす。そして女が其の攻擊を向けるのは、殊に彼に超人に向つてゞある。何んとなれば彼女の靈才は、力と思想とのより大なる創造に協力すべき生殖者が、彼女自身の中にある事

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を、自然の意志によつて推察する。

けれども超人は兩性の勝負を明かに看破してゐる。彼れは嬌媚を受けた其の時にすら、猶自然が巧妙を盡した陷穽を張つてゐる、其の企圖の大膽と威力とを測つて見てゐる。彼れは男が戀の發意をするのは、文明が未だ誘拐を廢せざりし、そしてダーキンの所謂『雌のより少なき熱情』てふ原始的法則の應用せられる時代から保存せられた、假制に過ぎない事を知つてゐる。

斯うして超人は女の企に對して其の獨立を侵害し、其の思想を汚瀆するものであると宣告した。けれども彼れは勝利の望を絕つて逃亡した。ターナは英吉利を去つて、更に歐羅巴を越えて、遠く遠く、亞弗利加の內地に自働車を馳せた。無駄なる努力よ。彼れはシエルラで西班牙の山賊共に捕まつた。後を追つて來たアンも一緖になつた。そして遂に超人は、生の力に對する其の絕望的鬪爭に負けて了つた。

文明は兩性の關係を變へた。保護尊敬せられてゐた女が慣習の上に其の勢力を及ぼし、秩序と平等との ブールジヨワ 精神は男の征服的態度と戀の暴擧とを制御し、益々多忙なる生活は愚かしき若氣を責任の重荷の下に壓へつけ、冒險と危險との嗜好は色戀の事から金錢の事に移り、此等の諸原因は現代社會を益々貪欲ならしめ、益々秩序的ならしめ、益々生産的ならしめ、益々單調ならしめ、益々野心的ならしめ、益々用心深からしめ、遂に往時の戀の冒險家をして、忠實なる『家畜飼ひ』たらしめ、或は憶病なる戀の兇咀家たらしめた

此處に於て女は男の『より少なき熱情』に對して鬪はなければならぬ。そしてショウはアンに此の努力を爲さしめてゐる。アンは男の憶病な發意に據る事の出來ない事を感じて、自ら其の將來を確めやうと決心した。けれども彼女は明かにそんな樣子を見せる譯に行かぬ。大膽なる攻擊を許す機會の來るまでは、猫のやうな謙しみを以て、包圍戰の軍略を盡して、其の戰鬪を進めて行かなければならぬ。アンの此の策略は、牝猫が嬌態を演ずる自然界の策略と共に、全く神聖なる、そして全く眞實なる近代的型である。

斯うして『超人』の中に眠つてゐる『人』が、超人に勝つた。『超人』は『生の力』に負けた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

三月の小説

寒

■強者と弱者と（伊庭孝）　Xといふ男とYといふ男との對話である、Xは所謂強者だ、彼の精力は緊滿し切つて、終日事業に奔走する、金主が附く、談判が直に纒まる片端から爲事が成立つ、そしてX自身の云ふ處に從へば、此の力が異性に對する潛勢力となつて、第一流の女が旺んに惚れる。蓋しXは身を賭し榮辱を抛つて女の爲に死ぬる人間である、異性に深い交渉を有し、それで一生を終つたら、それが最も充實した人生だと信じて居るのである。反之、Yは弱者だ、彼は熱烈な戀愛から醒めた時、戀愛の爲めに生活を變換して居て、非常な損失をして居たら如何にか悲しからうと思ふ彼は女の爲めに、ハンケチ一つ失なして居ても惜しいと思ふのだ。Yに云はせると、戀といふものは男にとつては、一年か二年の盲目的な快樂の爲に五十年の倦怠と勞働を強られる痲醉劑であり、女にとつては武器なのである。また男は女に引かるゝ度每に女に金箔を塗り附けるので、女に圍繞されて居ると思つて居る間に、男は悉皆地金になつて了ふものだ。然し如何しても女の物でない男がある、それは即ち弱い男だ。弱い男は女に對して些の吸引力をも有たぬ代り、また女に奪はるゝ何物をも有さない。聰明な近代人の醒めた態度といふものが、明白に窺はれる面白い作だと思つた。然し惟はなければならぬ、近代青年が社會進化の大勢に對して眞に聰明であり、國家的迷信に對して眞に冷靜であり、而して民衆の胸奥に醱酵せる革命的精神に對して眞に覺醒しなければ、彼等の聰明や、冷靜や、覺醒や、畢竟賤しむべき引込思案の一種に過ぎない事を。（黒耀）

■髮（松本正生）　前々號所載の分の續編で未完だ、一體此の小說は第一回ではよく解らなかつたが、本號に至つてハヽア之は爲永春水の梅曆を大正バリに行つたんだナと解つたてチ。醫學生の孝吉てえのが例の本朝稀代の色男唐琴屋丹次郎さ子、ようがすかい。之に惚れて居る祇園の藝妓菊勇なるものが、婦多川の米八さ。そして本篇後段に現はれて來る大津の小高といふ藝妓が是れなん即ち仇吉といふ譯サ。是で大阪の株屋で、北海道の漁業會社の重役だといふ菊勇の客なるものが、彼の通人『藤さん』の心意氣で行くとなると、全く嬉しいんだがなア。（青豁）

■一年間（らいてふ）　前は讀まなかつたから解らない、本號では大阪からヒツキリ無しに手紙を寄せて、稚氣と、衒氣と、滑稽と、厭味と、奇拔とを織り混ぜたやうな文章で、らいてふを偉いものゝやうに思ひ込んだり、江戶の若さを唄ひたいと云つたり、立派な友達に逢ひたいと云つて來る紅吉の非常に活躍して居るのが面白く、之に對して、その自分から同人と稱するのを見て、何といふ氣の早い、生意氣な奴だらうといふ反感を有ちながらも、その眞摯と卒直とに惹き付けられて行くらいてふの心もちも力強く描き出されて、次の俟たるゝ心地する作である。（同上）

■石垣（大杉榮譯）　アンドレイエフの飜譯である、こういふ物は神聖なる戀愛以外眼中何物も無き日本の文士諸先生は到底お書きにならないし、又文藝評論家といふ先生方にも一寸お解りになるまいと思ふから玆に簡短に說明申し上げる。此の一篇は十九世紀中葉に起つた露國の革命運動、及び革命家の絕望をシムボライズした物である長く連亘して居る石垣といふのは、即ち當

時の社會狀態で、その下を這ひ廻つて居る二人の癩病患者は革命運動家なのだ。彼等は同じく此の石垣の下を這ひ廻つて居る多くの人間から、厭がられ、憎がられ、臭がられ、そして嘲けり罵られつゝ、是さへ超せば何かあるだらうと云ふやうな、漠然とした然し熱烈な信念をもつて、その腐つた惡臭の發する手足から濁血を流しつゝ、幾度か石垣を超へんとしては失敗する。人民は泣き乍ら、悲しみ乍ら、單調な苦痛な舞踏を休む間も無くくり返して居る。一人の癩病患者の仲間は、遂に絶望して同じ患者の女と結婚し、石垣の上から崩れ落ちて來る石で商賣を始めると云つて友を捨てて了ふ。否、彼にも曾ては戀人があつたのだが彼の病氣とその惡臭とを厭ふて捨て去つた萬人の爲めに努力して、そして萬人に捨てられる。古今を通じて革命家の歩むべき道は一、曰く孤獨である。（三田文學）

▲水のおもて（久保田万太郎）　破産に瀕した舊家の商店を描いた脚本、所謂氣分劇であるが只だ作者に此の根本原因に關する智識が乏しい爲め、ホンのお芝居的氣分しか現はれて居ない（仝上）

■誕生の僥倖（上司小劍）　いかにもスツキリとした、水際立つて心もちの快い、垢拔けのした作品である。枇杷子がお櫃に自分の養女だといふ噂の實否を質す處など、飽くまで皮肉で居て、そして猶且つ輕いユーモアを失はない、此の作者獨特の境地を想はせる。（文章世界）

■醫者（中嶋清譯）　アルチバアシエフの作、猶太人に狙擊されて負傷した警部長の家に呼び迎へられた醫師は、此の血に乾いた野獸の如き警察官と軍隊との一群が、無辜の猶太人の上に加へた恐ろしい、殘酷な虐殺を想ひ出して、遂に治療を拒んで歸つて了ふ。熱と力に富んだ筆で、醫師の職業上の義務觀念と、道德的意志との衝突を描いた、反省させる處の多い小說である。警部長の美しい妻に對する同情と反感、嫉衝したやうな赤い肉體や、華美を極めた寢室や、露出しのダブル・ベツド等の光景が惹起す生理的嫌惡の描寫が面白い。（スバル）

■酒狂（藤井伯民）　『私達は素面で銀座の大通りを自由に濶步するには、餘りに弱い人間なのである』と云ふ一句がある。まさか電車に借がある譯でもあるまいが、所謂近代人てえ者は、何處まで氣障に篦棒に出來上つてるかスが知れない。（モザイク）

■寄贈雜誌■

白樺　新公論　內外教育評論　帝國文學　モザイク　新佛敎　人物　青年文壇　スバル　劇と詩　村落通信　鑛業及鑛夫　信濃評論

實業之世界　婦人評論　黑燿　奇蹟　新潮　人生と表現　東京魁新聞　郊外新報　野の聲　ニコ〳〵　青鞜　獨立評論

■三月號目次■

ヂレンマ（詩）……綠葉
羞恥と貞操（評論）……大杉榮
藝術か戰闘か（評論）……荒畑寒村
ユツトナア博士（詩）……土岐哀果
晝の街路にて（詩）……上山草人
青鞜社講演會（批評）……榮
食物を恥づる人民（寓話）……利彥
ブランリマインド（詩）……佐藤綠葉
ドリイマアよ（詩）……荒畑寒村
惑星旅行（小說）……安成貞雄
怪物（小說）……大杉榮
人と超人（脚本）……堺利彥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

■現代思想講話（大住嘯風著）

ゼームスとオイケンとベルグソンとを主として、猶其等の人々の思想の傳統を記述したものである。お馴染の本屋さんには甚だ相濟まないが、少々惡口を云はして戴きたい。尤も僕はメタフイジクの事は門外漢だから、其の方の事は多分著者が間違のない巧みな紹介をしてゐるものと讓歩をして、そして、僕自身の專問の事に就いてのみ惡口を叩いて置く。それは第十六章「アンリ・ベルグソン」の中の第三節「ベルグソンと勞働問題」の一項である。

ベルグソンはセンヂカリスムの「知力的本尊」ぢやない。尤もソレルなどは切りにベルグソンを擔いでゐるが、センヂカリスム其者と其の一理論家ソレル輩との間に、明白な區別をして貰いたい。センヂカリスムは勞働者が日々の生活と鬪爭との經驗から、自ら一歩々々築き上げて來た運動である、理論である。そしてソレル輩の學者等は、其の運動や理論の大体の輪廓が出來た時に、横町から出しやばつた來た好奇者共である。此のソレル輩を『此の運動の首腦』とした處などは、實に滑稽極まる。勞働者の心理は諸君紳士閥の心理と違つて、或る一人の人を本尊とし首腦とするやうな暗愚庸劣な考を持つてゐやしない。

ソレルやベルトが「實際的センヂカリスム」を唱へてゐるとは何んの事だい。著者はいつか萬朝の論文で『一般民衆』にルビをふつてブールジヨアとした程の學者なのだから、或はシオリチカルを實際的と譯したものと見れば、萬更想像のつかぬ事もない次手に云ふが、エルト（Verth）はベルト（Berth）の間違だらうれ。隨分お苦勞な事をしたものだ。

センヂカリスムは仰せの通り『せつぱつまつた勞働者の運動』である。しかし此のせつぱつまると云ふ事には、甚大の意味を含ませて貰ひたい。何故せつぱつまらせられたかを十分に考へて貰いたい。『惡く解すれば躁暴にして亂雜なる運動』などゝ、只表面に現はれた最後の事實のみを觀て、殊更に惡く解する事などは、學者の態度として控へて貰いたい。尤も此の著者には學者の態度などと云ふ事は、元々分つてゐないやうだ。せつ ぱつまつた眞劍の勞働者の運動を批評するのに『吾人の趣味から論ずれば甚だ憂ふ可く且つ忌む可き』などと來るのだから堪らない。成程ブールジヨアジーを一般民衆と心得、從つてプロレタリアを一般民衆の仇敵と認めてゐる著者の趣味からは、さう來なくちやなるまいよ。

僕は、著者が本當にセンヂカリスムを理解するやうになる爲に、The Labor Movement in France, a Study in Revolutionary Syndicalism, by Louis Levine, ph. D. の一讀をおすゝめして置く。

以上は先きにも云つた如く、本書中の僅かに數頁に亘つた只一節、しかもホンの挿話とも云ふべき部分に對する批評に過ぎない。本書の全体に對しては、ゼームス、オイケン、及びベルグソンの纒つた最初の紹介として、現代思想に生きる人々の爲めに推奬して置く。（榮）（金壹圓廿錢小石川區原町丙午出版社）

■戀愛三昧（森鷗外譯）

シユニツレルは戀愛の觀察なり描寫なりに清新な一家の見解を有して居る作家だそうである、近代脚本叢書第一編『戀愛三昧』はその作『リイベライ』を森鷗外の譯したも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ので、フリッツといふ大學生がクリスチイ子といふ娘をば、流石に捨て難くは思ひながら、猶烈しく戀して居た人妻の爲めに決闘して命を果す。後に事情を知つたクリスチイネは、孤獨の老父と、友達の止むるをも肯かず、狂へるが如くフリッツの墓に走つて行くといふのが一篇の荒筋である。僕はシュニツレルに就ては何も知る處が無いから、妄りに評は下せないが、尠くとも此の一篇を讀了して得た感じには、その作品が如何にも穩やかな、柔らかい味のある、清い澄んだ水の底の珠のやうな感じのする事である。つまり意氣で高尙といふやうな感がする。そして人妻の爲めに決闘までもしやうと決心し乍ら、猶且つ可憐で初心なクリスチイネに心を惹かるゝフリッツの心理に於て、特に此の感を深くするのである。然し又、作中の人物皆熱烈な感情を欠き、戀愛も、死生も、悉く茶を飲み飯を喫ふが如く、平氣に馴れつこに取扱つて居るやうに見へる。戀には身も命も忘るゝクリスチイ子の感情さへも、作全體を彩つて居る平靜冷澄の空氣の爲めに、著しくエフエクトを減ぜられて居るやうに思はれる。終りに、此の頃の出版物が下らぬ内容を盛つて居るにも拘はらず裴幀等をばかり立派にして、高い金を取つて居るのと違つて、此の叢書が何れも有名な文學者の傑作を、極めて廉價に紹介せんとする企ては賞めていゝ事である。(寒) (定價四十錢、神田區南神保町現代社)

■明治思想小史(三宅雪嶺著)

高嶋米峰君の丙午出版社が創立滿七年紀念とあつて、『太正文庫』並びに『佛敎講義錄』を發刊する。本書は即ち『太正文庫』の第一編で、三宅雪嶺先生が曾て大阪朝日新聞に連載したものである。『明治以前』から起論して『雜問題』に擱筆し、同篇二十章僅々百三十頁の小冊子の中に、尠くとも明治年代に於ける思想の變遷推移を記述したのであるから、その詳說細叙は固より望むべくも無いが、第一章『明治以前』から第六章『政黨の對立』に至るの諸章は、讀んで流石に面白いと思はるゝ節も多い。但だ、第十一章『新問題社會主義』及び第十三章『無政府主義』の二項に至つては、著者或は却つて深く說くのを避けたのか、觀察餘りに皮相に過ぎ、上撫でに奔つて、頗ぶるアッ氣無い感がある。況んや第十二章『不平の由來』の如き、個人主義と忠君愛國說の衝突といふやうな形而上的の思想のみを論じて一言の現代社會の經濟組織に胚胎せる平民勞働階級の社會的大不平の勃興に及ばざる如き、豈先生のオーソリチーに關するものでは無い乎。(寒)(定價金五十錢、小石川區原町六、丙午出版社)

■佛敎講義錄(第一號)

佛敎の事は僕には解らぬから、內容の批評は御免を蒙むるが、何しろ加藤だとか、嶋地だとか、境野だとか、渡邊だとか云ふその道專門の學者で、そして大家が十餘名も執筆するのであるから、固より充分信賴するに足るものと思ふ。科外講義としては宗敎學綱要、基督敎綱要、神道綱要等がある。毎月一回滿一ヶ年で完成の筈であると云ふ。本欄には一向顏を出さず、卷末に『編輯餘事』と題して、米峰先生獨りで氣焰を上げて居る處、他の講義錄には一寸見られぬ新佛敎式の面白さである。(寒)(一部金六十錢、丙午出版社)

■邦譯近代文學(野上臼川譯)

■畜生道(平出修著)

右の二書は次號に於て精細な批評を試みることゝする。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

賣文社より

遊六

■家主から立退を命ぜられた時にすら、業務擴張の爲め轉居といふ廣告を出す者もある世の中だから、滅多にアテにはならぬけれど、賣文社は今度ほんとに少しばかり業務を擴張した、兎に角京橋に乘出した丈でも頗るエライど思つて居る、況んや家賃四十圓、敷金三百圓と云ふに於いてをや、況んや(こいつが少々まづいけれど)電話架設中と云ふに於てをや、驚く勿れ賣文社は無慮金一千圓の資本を或御得意から借り得たのである。

■こんな報告の仕方をすると、さも冗談らしく聞えるけれど、實は賣文社たる者、今後は大いに商賣らしく商賣をするつもりである、作文、反譯、一切の業務は勿論として、外に圖案意匠部をも設け、寫字部、通譯部等をも設け、まだ外に色々新趣向の腹案もある、社員には高畠素之、小原愼三、相坂佶、百瀬晋、大杉榮、荒畑勝三等の諸君が居り、別に特約執筆家として上司小劍、白柳秀湖、寒川鼠骨、幸內純一、安成貞雄、竹內餘所次郎等の諸君がある、猶外に名を出さぬ特約家は數々ある、法律に關する件の如きは辯護士山崎今朝彌君が大いに骨を折つて吳れる筈である。

■扨この移轉擴張騷ぎの爲、今月はとうとう「人と超人」が書けなくなつて了つた。「新佛敎」の「自由鄕」の續きも休んで了つた平に讀者諸君の御宥恕を乞ふ。

■然し忙中にも亦閑がある、山口孤劍君がスバラシイ勢ひで結婚すると云ふので、ツイ大阪まで出かけて行つた、孤劍は美なる新夫人と共に自働車に乘つて式場から自宅に歸つた、僕は大阪日報社主吉弘白眼君に招かれて、其の濱寺公園の家に一夜の客となつた、例の警察君は又何か氣にして色々聞きに行つたそうだが、警察君乞ふ安んぜよ、白眼君と僕とは二十年の昔、一升の米を借りたり貸したりした間柄である、そして白眼君は今チヨツト金持になつて居る、それで舊友の老書生遊六が兼ての約束に從ひ、一晩絹の夜具に寐せて貰ひに行つたに過ぎない、歸りに小使錢の少々くらゐ貰つて來たか否かは敢て諸君が追究するにも及ぶまい。

■石川三四郎君は三月一日橫濱解纜の佛國郵船ポール、ルカ號に乘つて歐洲行の途に上つた、と云ふと大變景氣が好さそうだが實は洋服、帽、靴、時計など貰ひ集めの旅裝で以て、纔かに此の窮屈な日本の國から脫走した姿である、落ちつく先は白耳義のブルツセルとやら、途中上海邊では黃興、宋敎仁等の連中と會見したりして、大分得意であつたらしい。

■神田仲猿樂町ミルクホール豐生軒(藤田四郎君の店)が燒けた、然し直ぐ再築中、燒け太りになればいゝがと祈つてゐる。

■橫濱の白耳義領事館に副領事を務めてゐる Fernand Gobert といふ人は溫良明敏な靑年社會主義者で、僕等も昨年來交際してゐたが、惜しいことに今月末南米に轉任するそうだ。

■『貴社發行の近代思想三月號發行い分より今後每回一冊づゝ購入候に付其の都度當部警務課に御發送相成度候、茨城警察部警務課』といふ注文狀が近代思想社に來たそうだ、同社では早速送らうと思つたが、いや待て〳〵、本社の內規には、前金に非ざれば一切の注文に應ぜずとあるといふので其旨返答に及んだそうだ、賣文社にもチト警察あたりから作文反譯の御注文でも來ないかしらん、賣文社は警察樣に限り前金な

んて堅い事は申さんで、精々勉強を致す積りだが。

■安成貞雄、荒畑寒村、和氣律次郎の徒は、自らスリー、フエーマス、ヨタリスツ、インジヤパンと稱し、カフエー・パウリスタを本城として、毎度盛にヨタを飛ばして居る由其のヨタ的談論を稱してヨタ、トークと云ふとかや、コーヒーの二杯宛ぐらゐで二三時間も席をふさがれるパウリスタこそ好い迷惑な譯だ、其のヨタ、トークの一例を擧ぐれば、ツイ先日の如き、隣席に日向輝武君の來て居るのを知りながら、態と大きな聲で以て、日向君の如き人物はあんな美人を細君に持つ資格は無いといふ決議をしたそうだ、實に大正の聖代に於ける太平の逸民と謂つべきである、猶右ヨタ倶樂部たるパウリスタは賣文社のスグ近所であるので、右ヨタ組三氏は毎度打連れて賣文社にも御來臨がある、[illegible]は今に賣文社をもヨタ倶樂部の分室に仕[illegible]れまじき勢ひであるので 賣文社長たる者、實は大いに恐れを抱いてゐる。

■先日の新眞婦人會の演說會では、讀者諸君中にお馴染の多い西川文子さんが「文明と井戸端會議」を高唱して大に氣燄を吐いた窪田英子、堀保子、堺爲子などいふ錚錚婦人連も傍聽に出かけて居たそうだ。

■近代思想社の第三回小集は廿二日夜、例のメゾン鴻の巣で開かれる筈、今度は島村抱月、相馬御風の二君が御客として來臨せられるそうだ、こんな風に文壇諸名家と御交際の出來かけた所を見ると、近代思想社同人もよほど立身した譯だ。

■本月末の三日間は帝國劇場で伊庭孝君、上山草人君等の近代劇協會のフアウストの興行がある、近代思想社や賣文社の連中もナケなしの財布をはたいて總見物に出かけるそうだ、先日は又此一座の新女優歌路君が賣文社に遊びに見えた、光線の不足勝な賣文社もお蔭で大いに照り渡つた樣な氣持がした。

編輯室より

榮

■毎月編輯の時になつて、日に幾度ともなく僕の口をついて出るのは、『安成の野郎』と云ふ言葉だ『本月は第一番に送つて皆んなを驚かしてやる』と云ふ事だつたが、とう〳〵送つて來ない。

■前號の次號豫告には「婦人解放の悲劇」と『社會學の一節』とを僕がやる筈になつてゐたが、急にどちらも厭になつて、代りに『創造的進化』を書いた。

■安成が書かない上に、堺までが逃げて了つたので、已むを得ず、僕が大急ぎに「超人の戀」を書き上げて、そして足らぬなりに卅二頁で〆切つて了つた。

■處が原稿を印刷所へ廻してから、和氣律の一文が少々時事問題に亘る恐れがあると云ふので、之れまた大急ぎで、寒村がフアウスト論を書いていれかへにした。

■創刊の當時には、四月と十月とに擴大號を出すつもりでゐたが、それもだん〳〵厭氣がさして來て、ツイ其の話も立消えになつて、そして本號は毎月のよりも却つて小さくなつて了つた。

■次號からは寒村が大いに創作の筆をふるふ筈。

■發送をした雜誌が大ぶ途中で盜まれるやうだ、着いてからも、何んの彼んのと云つて取つて行く奴があるそうだ。そして正直に注文をして來た茨城縣警察部警務課からは、とう〳〵前金を送つて來ない。

——三月二十八日——

消息

■安成貞雄はやまと新聞社を辭して、飜譯に從事してゐる。

■佐藤緑葉はトルストイ作『生ける死骸』の飜譯中。

■德永保之助は病氣療養の爲め、伊豆大島元滞千代屋方に滞在してゐる。

■大杉榮は本誌九月號消息欄にあつた、お役人からの飜譯を拒絶して了つた。

■秋田監獄にゐる坂本、崎久保、高木、飛松の四氏は、先きに麻裏をつくつてゐたが今は靴下のかゞりをやつてゐる。

■故石川啄木一週忌追悼茶話會

日時　四月十三日午後一時より
場所　淺草區松淸町華光寺にて
會費　金三十錢（當日持參）
發起人　與謝野　寛　佐藤　眞一
北原　白秋　西村　陽吉
金田一京助　土岐　哀果

尙ほ出席の方は、來る七日までに、芝區濱松町一の十五土岐哀果宛通知せらるべしと云ふ。

■土岐哀果はトルストイの遺作『隱遁』を譯了し近く新陽堂より出版するよし。

■本社取次書籍■

本社に於て次の書籍の取次販賣をいたします。

御注文は成るべく振替貯金を利用せられたく、本社の振替貯金は東京一七一六三番に加入してあります。郵券代用は一切御斷りします。

價は定價通りに戴いて、郵税だけ當方で負擔いたします。

▲畜生道（平出修著　全壹圓）
▲社會主義倫理學（カウツキー著　堺利彦譯　金壹圓）
▲運命の人（ショウ著　楠山正雄譯　金四拾錢）
▲闇の力（トルストイ著　林久男譯　金七拾錢）
▲近代思想の解剖（樋口秀雄著　金壹圓五拾錢）
▲決鬪（クウプリン著　昇曙夢譯　金壹圓）
▲現代思想講義（大住嘯風著　金壹圓廿錢）
▲明治思想史（三宅雪嶺著　金五拾錢）
▲チエエホフ集（前田晁譯　金壹圓）

■定價一册金拾錢、半年分前金五拾五錢。一年分前金壹圓。但し海外よりの御注文は別に一册金二錢宛の郵税を要す。

■每年數回擴大號を發行す、其場合には其定價に應じて前金より差引す。

■郵券代用は五厘切手に限る。但し一割增の事。

■廣告料特別一頁拾五圓普通拾圓。

■本社振替貯金番號一七一六三

大正二年三月三十日印刷納本
大正二年四月一日發行

府下大久保百人町三五二
近代思想社內
編輯兼發行人　大杉榮

府下大久保百人町三五二
印刷人　荒畑勝三

淺草區黑船町二十八番地
印刷所　東京並木活版所

大賣捌所　東京堂、上田屋、東海堂、北隆館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三回新學期開講

●切實なる時代の要求に依りて生れたる最も實際的なる漢學講義錄!!（此際入會者には特典あり）

普通漢學講義

講義　毎月二回發行
會費　一ヶ月　四十錢　一ヶ年（全部四圓四十錢）
講師　博士、學士、其他數名
會期　一ヶ年

漢學は東洋思想の源泉にして東亞文明の根本たり其教訓の深遠なる其興味の無限なる一朝にして之を悟るべからず、然のみならず漢文學は日本文學の一支源にして其感化の及ぶ所至大至深なり苟くも漢學の智識を缺きては遂に文を屬する能はず。思想に志あるものと文章に志あるものと凡て必ず之を學ばざるべからず、而かも世に漢文學を平易に講述せるもの甚だ少し、本會夙に『漢學講義』を發刊して其平易なる講義と懇切なる指導により、大に斯界の歡迎を博し既に學期を重ねて基礎益々固く信用益々深きを加ふるに至れり、今や第三新學期を開講し大いに特典を設けて會員を募集す。江湖斯學に志あるの士、速かに來て入會せられよ。講義錄「見本付會則」申込次第無代進呈す

●漢學獨習に缺く可からざる講義錄として好評嘖々たり

東京市小石川大塚上町十三
振替（東）一二九四番
漢學普及會

洋書専門賣買

▲御不用の書籍御一報次第店員参趨高價頂戴又は交換

▲御申込次第目錄進呈

東京本郷森川町
大學正門前

郁文堂書店

人若し薬を需めんとせば須く撰擇を要す

清心丹の三大特色は

一、効能の確實

二、品質の善良

三、價格の低廉

主治効能

心思鬱憂、頭痛眩暈、胸痛腹痛、過酒過食、悪心嘔吐、溜飲宿食、中暑中寒、下痢疝痢、舟車不快、喀痰咳嗽、咽喉不調、歯痛口臭、

定價 壹圓箱入 五拾錢箱入 參拾錢罐入 拾五錢罐入 拾貳錢瓶入 貳拾錢紙包 拾錢紙包 五錢紙包

本舗 東京市日本橋區元大坂町八番地 高木與兵衛

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

賣文社

作文、反譯一切の業務を取扱ふ猶圖案意匠部寫眞部通譯部等の設あり今回業務擴張の爲轉居電話振替等目下設備中營業案內御入用の方は往復葉書にて申込あれ

東京市京橋區南佐柄木町三

堺利彥

小林の畫會

▲小林德三郎の畫をほしがつて居る方がだいぶあるので小林にウント安くさして賣ることにしたのです。

▲その畫は八號の油畫（額緣がついて居ます）で三十枚を限ります。

▲御望みの方は一枚の畫について每月壹圓づゝの拂込を十二ヶ月つゞけて下さればいゝのです。

▲申込期限は二月一日から四月末日まで、申込は奇蹟編輯所宛（東京市麻布區材木町六十九、電話芝二二五八番）最初の壹圓を添へて申込んで下さい。

▲畫は申込順で六月末までに差上げます。

▲御預けする畫その他の小林の作品をまとめて六月迄に展覽會をいたします。

「奇蹟」同人

洋書バアゲイン

	定價	特價
▲英文學史（ガアネツト、ゴツス共著）	四十八圓	二十八圓
▲十九世紀文學主潮（ブランデス著六卷）	十五圓	十三圓
▲トルストイ傳（ポール、ビリユーコフ著）	四圓	一圓五十錢
▲露國革命運動（ジリアカス著）	二圓五十錢	一圓七十五錢
▲フローベル全集（十卷）	五十圓	二十圓
▲ゴーチヤア全集（二十四卷）	百二十圓	五十圓
▲モウパツサン全集（十七卷）	七十五圓	三十圓
▲ド・ミユセー全集（五卷）	三十六圓	十圓
▲オスカア、ワイルド全集（十五卷）	六十圓	三十圓
▲バルザツク傳（ロウトン著）	十二圓	六圓
▲革命黨のタイラ（イダ・テイラア著）	二圓五十錢	一圓五十錢
▲犯罪社會學（エンリコ・フエリ著）	八圓	四圓

▲其他文學、美術、演劇、社會學等の著書數百

右何れも英文特製美本、此際上記の如き特價を以て海外より取寄方御依賴に應ず。詳細は彰文閣に御照會あれ。

本郷區森川町一番地橋下三六

彰文閣　阿部　彰

顧問　安成貞雄

文藝協會第五回公演脚本

獨乙マイエル・フヱルスタア原作
日本松居松葉譯

おもひで

東京有樂座にては連日滿員日延公演を爲したる名脚本にして大阪浪花座京都南座に於て又關西幾多の人士が胸奥の琴線に觸れたる名著なり。夫れ學生生活の樂しさと清新なる戀とを味はんとするものは本書を讀め！

▲中澤弘光畫伯裝幀
▲名優公演コロタイプ六葉挿入
▲洋裝箱入頗美本
▲定價金九拾五錢
▲郵税金八錢

思想問題

文學博士 上田敏先生著

▲裝釘秀麗
▲箱入全一册
▲金壹圓貳拾錢
▲小包料八錢

東京市麴町區平河町五丁目五番地
近代[illegible]社
電話番町二〇九三[illegible]二七番

故樋口一葉女史遺著

文學博士 佐佐木信綱君序

一葉歌集

明治の天才たる女作家の歌集出づ。女史の遺せる歌數すべて四千首あまりの中より佐佐木博士が選出せられたる金玉の佳詠を收めて本書成る四季叙景の歌及び雜の歌に觀察着想の清新なるものあるをはじめ、殊に戀歌の中に幾多の眞情流露せる作に著しきものあり。女史の俤を偲はんとする者、一葉全集を繙きたるものは必ず併せ讀むべきなり。

全一册洋裝四六判
美本紙數約百六十頁
正價金四十五錢
郵稅六錢

前田晁君譯

短篇十種

チエエホフ集

希望の光明と幻影の幽韻とを失へる聰明なる人々の行くべき人生の道は何處ぞ。ロシア隨一の短篇作家チエエホフが其の燃犀の觀察と深刻なる心理研究とを以てして、生けるが如く精細に再現したる獨擅場は、即ち彼等聰明なる人々の日常生活ではないか。滑稽より嚴肅、嚴肅より憂鬱に、憂鬱より人なつこい微笑を含んだ厭世に赴ける偉大なる藝術家は、人生の歸趣に關して果して何事を吾人に暗示するか。泣けども涙を流さず、清澄秋の日の如き他の作家の吾人に瞑想せしめるものは何か。痴愚凡庸の德に蹂躙せられ、迫害せられつゝある人士の爲めに、ユウモアに富める此一卷の與ふる慰藉の無限なるべきを信じて、玆に廣く江湖に提供する。

四六判並製
紙數三百五十餘頁
正價五十錢
郵稅六錢

東京日本橋本町 博文館 振替東京二四〇番

近代思想 第一巻第七號 大正元年十月一日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行) 大正二年三月三十日印刷納本(大正二年四月一日發行) 四月號 金十錢

近代思想

第一巻第七號

大正二年三月三十日印刷納本（大正二年四月一日發行）

四月號

金十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故樋口一葉女史遺著

文學博士 佐佐木信綱君序

一葉歌集

明治の天才たる女作家の歌集出づ。女史の遺せる歌數すべて四千首あまりの中より佐佐木博士が選出せられたる金玉の佳詠を收めて本書成る四季叙景の歌及び雜の歌に觀察着想の清新なるものあるをはじめ、殊に戀歌の中に幾多の眞情流露せる作に著しきものあり。女史の俤を偲はんとする者、一葉全集を繙きたるものは必ず併せ讀むべきなり。

全一冊洋裝四六判
美本紙數約百六十頁
正價金四十五錢
郵稅六錢

前田晁君譯

短篇十種 チエエホフ集

希望の光明と幻影の幽韻とを失へる聰明なる人々の行くべき人生の道は何處ぞ。ロシア隨一の短篇作家チエエホフが 其の燃犀の觀察と深刻なる心理研究とを以てして、生けるが如く精細に再現したる獨擅場は、即ち彼等聰明なる人々の日常生活ではないか。滑稽より嚴肅、嚴肅より憂鬱に、憂鬱より人なつこい微笑を含んだ厭世に赴ける偉大なる藝術家は、人生の歸趣に關して果して何事を吾人に暗示するか。泣けども涙を流さず．清澄秋の日の如き他の作家の吾人に瞑想せしめるものは何か。憐愍凡庸の徳に蹂躪せられ、迫害せられつゝある人士の爲めに、ユウモアに富める此一卷の與ふる慰藉の無限なるべきを信じて、玆に廣く江湖に提供する。

四六判並製
紙數三百
五十餘頁
正價五十錢
郵稅六錢

東京日本橋本町 博文館 振替東京二四〇番

近代思想 第一卷第七號

大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正二年三月三十日印刷納本（大正二年四月一日發行）

四月號 金十錢